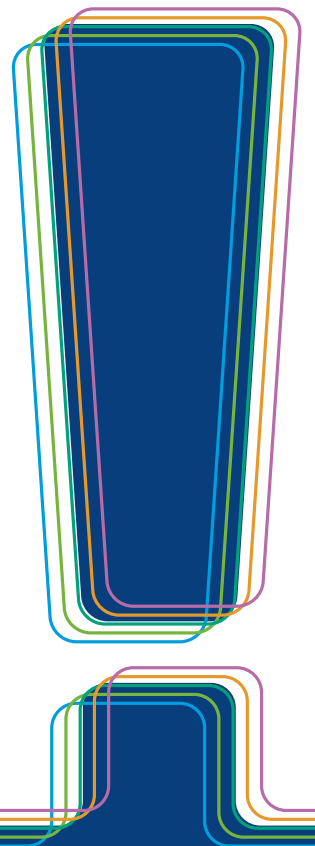


KOIZUMI

— 違う発想がある

Communication Report 2017

小泉産業グループ コミュニケーションレポート



小泉産業グループの報告テーマ

KOIZUMI 4 Keywords

小泉産業グループは、“4つのキーワード”で、
ステークホルダーの皆様との
コミュニケーションを広げていきます。

快適な暮らしのための
さまざまな製品・サービスで。

Comfort
快適

環境配慮型の製品開発と
事業活動での環境保全を。

Ecology
環境

従業員は
もちろん、地域の
“人々”に対しても。

People
人

取引先様、サプライヤ様との
良好な関係づくりを。

Partner
パートナー

編集方針

本レポートは、ステークホルダーの皆様との
コミュニケーションのさらなる活性化を目的に、
当社グループと社内外のステークホルダーの皆様
との“対話”を中心に編集しています。お客様や
協力会社様をはじめ社外のステークホルダーの
皆様からのご意見・ご要望を掲載するとともに、
仕事に対する従業員の想いを多数紹介しています。
また、「快適」、「環境」、「パートナー」、「人」の“4つ
のキーワード”を報告テーマとして設定し、本
レポートで展開しています。

報告対象組織

本レポートでは、持株会社である小泉産業(株)と
国内事業会社5社、合計6社の取り組みについて
報告しており、その詳細は以下のとおりです。

■ 小泉産業(株) ■ コイズミ照明(株)
■ コイズミファニテック(株) ■ (株)ハローリビング
■ (株)ホリウチ・トータルサービス ■ コイズミ物流(株)

報告対象期間

2016年4月1日から2017年3月31日まで
(当社2016年度)。
※一部、2017年度の内容を含みます。

発行日 2017年7月
(次回発行予定 2018年7月)

目次

- 01 小泉産業グループの報告テーマ
- 02 小泉産業グループについて
編集方針／報告対象組織／報告対象期間
- 03 小泉産業グループの事業
- 05 経営者からのメッセージ

特集 1

- 07 “あかりの杜”をコンセプトに
人と環境に配慮した革新的なオフィスビル
コイズミ照明 R&D センターが稼働開始

特集 2

- 11 創業300周年を迎え、KOIZUMIの力の源泉をたどり、
未来につなげる記念事業を実施

社長が語る

- 15 コイズミ照明(株)のこれから
- 17 コイズミファニテック(株)のこれから
- 19 (株)ハローリビングのこれから
- 20 (株)ホリウチ・トータルサービスのこれから
- 21 コイズミ物流(株)のこれから

コイズミ照明(株)の取り組み

- 23 「DALI」を基軸としたLED 開発や知的
生産性向上に寄与する「あかりラボ」
「実証・体験型オフィス」として

コイズミファニテック(株)の取り組み

- 27 時代の変化を捉えた「5つの事業」で
新しい「モノ・コト」を発信

(株)ハローリビングの取り組み

- 30 全国対応できる強みを活かして
マンション開発業者様と連携し
お客様目線で住宅設備機器を提案

(株)ホリウチ・トータルサービスの取り組み

- 31 内装資機材の搬入をワンストップで請負い、
都心の大規模複合施設特有の難題を解決

コイズミ物流(株)の取り組み

- 33 照明、家具、家電の各業界特性に特化した
物流サービスを提供

小泉産業(株)の取り組み

- 35 小泉成器(株)との協力で推進
児童養護施設への「デスク・家具調コタツ寄贈活動」
- 37 多様性を活かす小泉産業グループ
「ダイバーシティ推進基本計画」を策定
- 39 ステークホルダーへの責任と課題
- 40 KOIZUMI TOPICS
- 41 小泉産業グループ各社の概要

小泉産業グループについて

小泉産業株式会社

本社所在地 〒541-0051
大阪市中央区備後町3-3-7

代 表 者 代表取締役社長
梅田 照幸

創 業 1716年(享保元年)

設 立 1943年6月25日

資 本 金 1,575百万円

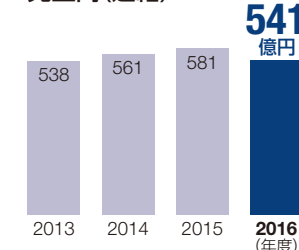
従 業 員 1,795名(連結)

事 業 内 容 持株会社

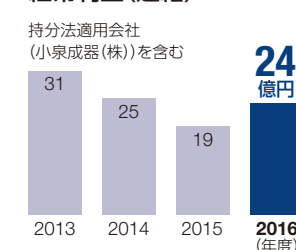
子 会 社 17社
(うち連結対象13社)

売 上 高 54,079百万円(連結)

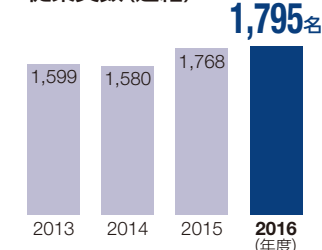
売上高(連結)



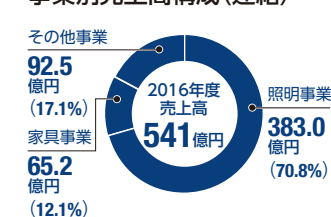
経常利益(連結)



従業員数(連結)



事業別売上高構成(連結)



国内ネットワーク

国内子会社 **9** 社
国内 **84** 営業所

海外ネットワーク

海外子会社 **8** 社

KOIZUMI 6 Divisions

グループ全体で、快適な空間を提供します

照明事業

「あかり文化」の創造を目指して

住宅照明と店舗・施設照明を事業領域に、照明器具の企画・開発から各種空間の照明設計までをトータルに展開。あかりによる快適な空間づくりを通して、新しい「あかり文化」の創造と省エネに貢献できる製品の提供を目指しています。

コイズミ照明株式会社

照明器具の企画・開発・製造・販売

コイズミ照明デバイス株式会社

照明器具部品の販売および輸出入
照明器具組立

コイズミライティング株式会社

照明器具の製造

青垣コイズミ照明株式会社

照明器具の製造

小泉産業(香港)有限公司

照明器具の企画・開発・製造・販売

東莞小泉照明有限公司

照明器具の開発設計・組立製造・販売

克兹米商貿(上海)有限公司

照明器具の企画・販売

コイズミライティング シンガポールPTE. LTD.

照明器具・部品の輸出入販売

照明デザインおよび電気工事

K.L.T.(シンガポール)PTE. LTD.

照明器具の企画・販売



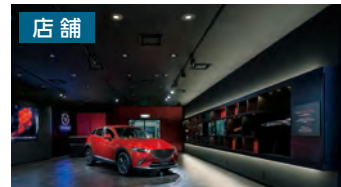
SHIBUYA109 香港ハーバーシティ店(香港)



HDC Shilla免税店(韓国)



ラ・スイート神戸オーシャンズガーデン・
神戸みなと温泉 連(兵庫県)



MAZDA BRAND SPACE OSAKA(大阪府)



住宅



住宅

協力: 株式会社カンディハウス

住設販売事業

インテリアから家電、内装材まで

各種インテリア製品や内装材などの住宅設備機器の販売・施工サービス事業を全国で展開し、快適な生活空間をトータルに提案しています。

株式会社ハローリビング

住宅設備機器の販売・取付工事

株式会社サンシャイン

住宅設備機器の販売・取付工事



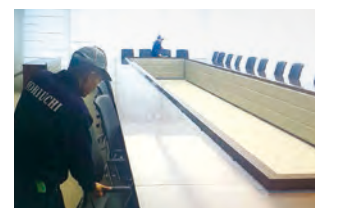
セットアップ・サービス事業

物流の枠組みを超えたサービス体制を構築

家具・什器・設備などの搬入、設置のビフォアからアフターまで、さまざまな業界においてプロフェッショナルサービスを提供しています。

株式会社ホリウチ・トータルサービス

ホテル、オフィス、商業施設等への家具・什器・設備等の搬入設置業務



家具事業

暮らしを「科学」し、快適生活を提案

子どもの成長を支える「学習家具事業」を中心に、「書斎家具事業」「シニア家具事業」「ダイニング家具事業」「コントラクト家具事業」を展開。人と暮らしを「科学」し、健康・安全と環境に配慮した製品・サービスを提供しています。

コイズミファニテック株式会社

学習家具、書斎家具、シニア家具、
ダイニング家具などの
企画・開発・製造・販売

小泉家具(大連)有限公司

学習家具の販売
中国での品質管理業務

コイズミファニテック (タイランド)CO., LTD.

ダイニング家具の開発設計・製造

コイズミサンギョウ (タイランド)CO., LTD.

家庭用家具・店舗用家具・特注家具・
店舗用什器の企画・開発・製造・販売



学習家具



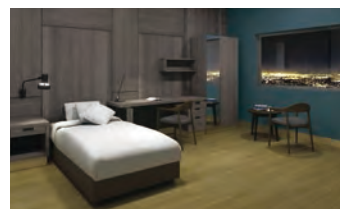
シニア家具



書斎家具



ダイニング家具



コントラクト家具

物流事業

インテリアから家電、内装材まで

グループ内各社のロジスティクス機能を担う一方、培った経験とノウハウを活かし、幅広い業界のお客様に最適な物流ソリューションを提供しています。

コイズミ物流株式会社

物流事業・倉庫業・物流システム
開発販売業務



グループ統括

「価値創造の専門集団」を目指して

それぞれの事業領域で専門性を発揮するグループ各社を統括し、KOIZUMIブランドの価値向上を目指しています。

小泉産業株式会社

持株会社として、グループ統括機能と
各社の事業運営の管理・監督



時代の変化を捉え、「違う発想」で お客様の課題解決に貢献し、 新たな価値創造に挑戦し続けます

KOIZUMI

300年の歴史を未来につなげ、信頼される企業として、 各業界のトップランナーを目指していきます

2016年、小泉産業グループは創業から300周年を迎えました。記念式典や展示会などを通じ、仕入先様やお客様に当社グループのDNAや歴史を知っていただいたと同時に、人々の暮らしに向けて新たな価値を創造し続けてきた自社の歴史に、社員も改めて自信を深めたのではないかと考えています。

前年の2015年には、グループのアイデンティティを「_違う発想がある_」というブランドステートメントに凝縮し、ブランドロゴも一新して、新たな歴史を歩み出しました。今後も信頼できる企業、他とは違う発想を持つ企業であるというイメージの浸透に継続して取り組み、各業界のトップランナーを目指していきたいと考えています。

未来に向けた投資のひとつとして、2017年2月には、コイズミ照明(株)の新たな研究開発拠点「コイズミ照明R&Dセンター」(大阪市東成区)を開設しました。(詳細はP7-10、P23-26)。国も推奨している最先端のオフィスビルのモデルとして、新しい時代に合った働き方、環境問題、地域との調和を具現化する場として、今後、さまざまな検証を進めていきます。

小泉産業(株)
代表取締役社長
梅田 照幸



モノ作りから、輸送、搬入・設置まで、 総合的に付加価値を提供できる体制で、シナジーを発揮

振り返って2016年度のグループ全体の収支は、減収増益となりました。減収の主な要因は、売上の7割以上を占める照明事業で、店舗・商業施設の市場が広がらなかったこと、また、為替の影響で海外子会社の連結決算の数値が1割ほど下がったことです。これらの要因を除けば、おおむね前年並みを維持できました。一方、照明、家具の両事業においてグループのシナジー効果が発揮できたことが、増益につながりました。

具体的には、ホテル、商業施設、オフィスといった非住宅の分野で、お客様のニーズに応じた別注の照明や家具をコイズミ照明(株)、コイズミファニテック(株)で作製、それを同じくグループのコイズミ物流(株)が運び、(株)ホリウチ・トータルサービスが現場に搬入・設置する。すなわち、ひとつの案件に対し、グループとして総合的に付加価値を提供できる体制が、2016年度、大きく進展しました。これは今後、当社グループにとって大きな強みになっていくと見ています。グループ間の情報の共有化も進み、営業活動も非常にスピーディーになってきています。

モノ売りからコト売りへ。発想とビジネスの転換を図り、 成長戦略を本格化させていきます

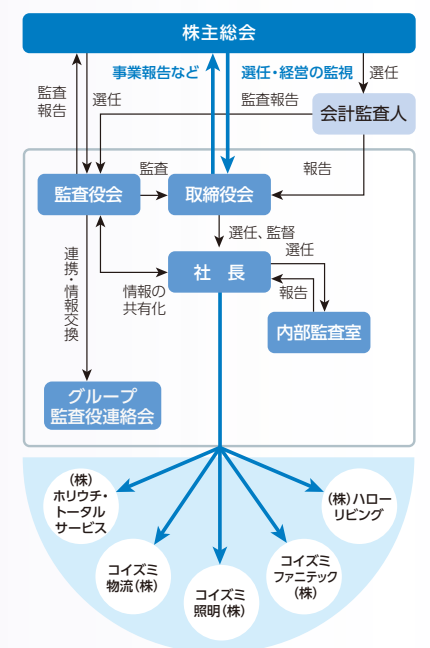
2017年度は第四次中期経営計画の最終年度にあたります。住宅着工戸数が伸び悩む中で、既存分野は苦戦すると予想していますが、その穴埋めと同時に、さらにその上の成長を目指すために、照明・家具ともに残っているマーケットに積極的に人員配置と投資をしていきます。また、アジアにおいては、照明・家具ともに、人材、拠点の双方で体制が整い、今後さらに積極的に切り込んでいきます。

私たちが目指してきたのは、単に「モノ」を作って売だけのビジネスではなく、そこに付加価値をつける、「コト」売りのビジネスです。ブランドステートメントに掲げた「違う発想」とは突拍子もない発想ではなく、お客様の課題解決、より良い社会づくりにいかに貢献していくかが、その発想の原点です。時代の変化を捉え、新しいモノ・コトを探していくこそが当社グループの企業活動です。グループ売上1,000億円に向けた成長戦略を実践し、グループ全体で快適空間を提供するビジネスを今後も展開してまいります。

小泉産業グループの理念

社 是
人格の育成向上
グループ経営理念
新しい着眼と独自の発想で 新たな価値を創造し 人と社会に夢と感動をつくり出します
グループ行動理念
- 積極果敢にチャレンジし、目標を必達します - 自由活発なコミュニケーションを行い、明るく、元気に、同志とともに進みます - 互いに学び、人間力を高めます - 現場、現物、現象を基本に、お客様の課題を解決します - 三方よしの精神で、信用と信頼の向上を図ります - 社会規範を遵守し、地域、社会、地球環境に貢献します
グループビジョン
私たちは、ゆたかで快適な暮らしを提供する愛される“価値創造の専門集団”をめざします

■ グループガバナンス体制図



“あかりの杜”をコンセプトに 人と環境に配慮した革新的なオフィスビル コイズミ照明 R&D センターが稼働開始

小泉産業(株)が建設計画を進めてきたコイズミ緑橋ビルが、2017年3月に竣工し、コイズミ照明(株)の新たな研究開発拠点「コイズミ照明 R&D センター」として稼働を始めました。「あかりの杜」をコンセプトに、人と環境に配慮した「あかり文化創造企業」を目指す姿勢を具現化し、LEDに特化した最新の研究施設と知的生産性を高める革新的オフィスが実現しました。



省CO₂と周辺環境との調和、多様な働き方への対応など、さまざまな課題の解決を目指す企業姿勢を具現化

センターの建設プロジェクトは、照明のブランドメーカーとして、ますます進化するLEDに対応する最新鋭の試験設備を導入する必要性から始まりました。商品企画、開発設計、品質保証、営業などの部門を集結し、開発スピードやヒト・モノ・ソリューションの質を向上させる革新的なもののづくりを目指す場であると同時に、環境経営の推進に取り組む企業姿勢や「違う発想がある」というブランドステートメントを具現化する先進的なオフィスづくりを目指しました。

「省CO₂」や「周辺環境との調和」「社員の多様な働き方への対応」といった、さまざまな課題の解決のあり方を発信する場にしたいという想いを受け止めていただいたのが、設計・施工をお任せした竹中工務店様でした。両社で協議を重ね、実現したビルは、緑化した階段状のバルコニーと建物中央の吹き抜け空間によって、自然の光と気流を最大限に利用する構造が特徴です。各階をつなぐ吹き抜け空間は、社員のコミュニケーションを活性化する装置としての機能も果たしています。

また、国際的な照明制御システム「DALI」を導入し、自然光に連動した照明や空調などを制御。オフィスでありながら、実験的なショールームの役割も果たし、照明製品だけでなく、小泉産業グループが目指す「モノからコトへの転換」を実証していく母体として活用できたいと考えています。

これらの取り組みの革新性により本建設プロジェクトは、中小オフィスへの今後の波及効果に対する期待から「平成27年度第2回サステナブル建築物等先導事業(省CO₂先導型)」として、国交省により採択されました。

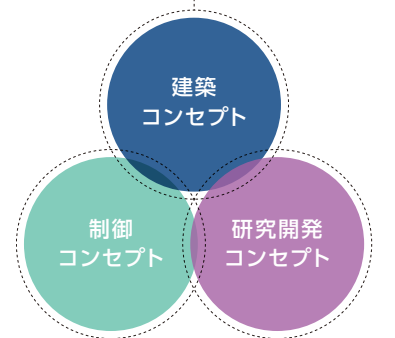
R&D センターの3つのコンセプト

あかりの杜5つのテーマ

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1 Transmission
顧客への発信性 | 4 Sustainability
地球環境の持続性 |
| 2 Cooperation
周辺との協調性 | 5 Continuity
事業の継続性 |
| 3 Communication
社員の革新性 | |

あかりの杜

多様なあかりを追求する
新・あかり文化創造拠点



DALIを軸とした
連携制御システム

中央監視による
自然光と連動した
エコロジーな制御

安全性・信頼性
検証のための
研究開発設備

高付加価値製品を
創出する基盤となる
専門設備

サステナブル建築物等先導事業審査の評価コメント

周辺環境と共存しつつ外皮熱負荷低減を図る建築計画、知的生産性の向上も配慮した照明計画、照明と空調の連携した新たな制御など、中小規模のオフィスへの展開を目指す意欲的な取り組みであり、中小規模オフィスへの波及、普及につながるものとして、先導的と評価した。本事業を通じて、知的生産性の向上などの効果の検証がなされることを期待する。



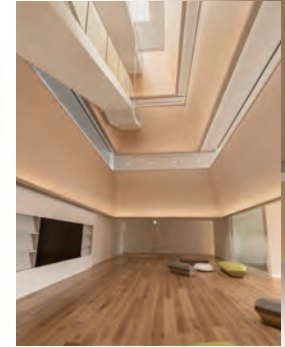
小泉産業(株)取締役
コイズミ照明(株)
専務取締役
R&D センター長
谷垣 正則

“あかりの杜”^{もり}はいかにして生まれたか ～建築プロジェクトのキーパーソン対談～

構想から6年、計画から竣工まで2年半に及んだ建設プロジェクト。「あかりの杜」というコンセプトを具現化した革新的オフィスはどのように生まれ、形づくられていったのか。設計・施工に携わった(株)竹中工務店様とコイズミ照明(株)のプロジェクトリーダーに語り合っていました。(敬称略)

株式会社竹中工務店
大阪本店 設計部
設計第5部門
設計2グループ長
有田 博 様

コイズミ照明(株)
経営本部
経営企画部 部長
西川 正



試行錯誤を重ねた吹き抜けの間接照明



自然や人の温もりのある新しい“あかり”が 生まれる場所づくりをコンセプトに込めました

コイズミ照明・西川●当初、私たちが出した要望は、「環境配慮」「人への配慮」「新技術」「ライフサイクルコスト」など12項目に及んでいました。それに対して「あかりの杜」というコンセプトはどのように生まれたのですか？

竹中工務店・有田●まず注目したのは、照明メーカーとして漢字の“灯り”ではなく、ひらがなの“あかり”を大切にされていることでした。そこで、人の行為に結びついたあかりや自然の中のあかりといった、温もりのあるあかりを体感し、新たなあかりが生まれる拠点づくりを目指して、「あかりの杜」というコンセプトを創りました。



周辺住民への配慮を要望されていたことも、重要でした。計画地は住宅地の中にあります。そこで、南面を階段状にして住宅地から見える空をできるだけ多く残し、樹木を植えてプライバシーにも配慮しました。周囲と共生する緑あふれるビル、それが「杜」という言葉になったのです。

西川●設計プロポーザルの提案の中で、竹中さんの案がデザイン面、コンセプト面で最も高く評価されました。私自身、階段状のバルコニーから柔らかな自然光が入るオフィスという提案がとても気に入りました。

分科会やワーキングで社員の意見を吸い上げ、 延べ47回の打ち合わせでコンセプトを具現化

西川●具現化にあたっては、5つの分科会と9つのワーキンググループを作って社員から意見を募り、竹中さん側とすり合わせをしていきましたね。

有田●特に興味深かったのは、ワーキングスタイル分科会です。どんな働き方をしたいのか、どんな会社にしていきたいのか、若手の皆さんが積極的に案を出されていました。ご意見は、オフィスのレイアウトや照明計画、家具などあらゆるところに反映されています。

西川●外資系企業を含めて最先端のオフィスがどのようなものなのか、現地視察にも行きましたね。

有田●見ていただくのが一番早いですから。コイズミ照明様と小泉産業様の若手から役員の方まで参加されていたのが、コイズミさんらしいと思いました。

西川●オフィスフロアには「DALI」の制御システムを入れ、照明器具も新規に開発するというスタンスでしたから、照明プランを実現するための建築設計には苦慮されたのでは？

有田●打ち合わせは建築の仕様から内部素材まで47回にも及びましたね。照明プランに対応しやすいよう、当社ではさまざまなタイプの照明器具に対応する超軽量天井「ライトセーフ」をご提案し、採用していただきました。

西川●生産性向上に寄与するよう、3つの執務フロアそれぞれの部門の業務内容に応じてレイアウトや照明を変えたのが大きな特徴です。その分、打ち合わせや決定事項も3倍になるわけですから、お互い大変だったと思います。

建築と照明のプロが意見・アイデアを出し合い 今までにない斬新なオフィスに結実

有田●特に中央の吹き抜け空間については、何度も検証をさせていただきました。最終的に設計変更は80項目に及びましたが、照明と建築のプロが互いに意見・アイデアを出し、カタチを作り上げていく過程は非常に刺激的でした。変更についての判断が遅れると工期に影響することもあります。西川さんのジャッジメントが非常に早く適切だったので、スムーズに工程が進みました。プロジェクトを前に進めるスキルが高い会社という印象を受けました。

西川●こちらこそ、「違う発想がある」というブランドステートメントを見事に建築側の視点から実現していただき、感謝しています。ずっと新しさを失わない空間を作りたいという要望についても、作り込みすぎない設計で更新性に優れた空間が実現できました。11カ月という短い工期でよくぞやり遂げていただきました。

有田●工期中に鉄骨の製造工場が熊本地震で被災したときは、ヒヤッとしました。工場長の自宅が全壊し、震源地近くの工場が3週間は停止になるところをわずか4～5日で立ち上げていただき、影響が最小限だったのは幸いでした。

西川●工事協力会社様との日頃の信頼関係の賜物ですね。



「あかりの杜」というコンセプトが生まれるもととなった照明文化研究宣言のポスター



4F南側
PC作業・事務作業のしやすいフラットな光を創出する調光調色ベースライト



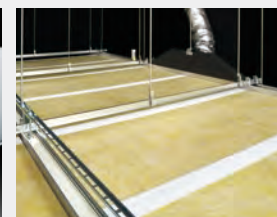
4F北側、5F
フリーアドレスに対応しやすい光環境を作り出す調光調色ダウンライト



6F
シームレスな光のラインで、フラットな明るさとソリッドな建築イメージを作り出すライン照明



設計具現化のために、竹中工務店様が軽くて安全な天井システム「Lite-Safe(ライトセーフ)」を開発



熊本地震で深刻な影響を受けた部材工場様に、竹中工務店様が激励の寄せ書きを贈られました

特集2

創業300周年を迎え、 KOIZUMIの力の源泉をたどり、 未来につなげる記念事業を実施

2016年、小泉産業グループは創業300周年を迎えました。アパレル事業を展開する小泉株式グループ、家電事業を展開する小泉成器グループをあわせた小泉グループのルーツは、近江商人の小泉太兵衛が行商を始めた1716年にさかのぼります。以来、受け継いできた「三方よし」「新しい着眼」というDNAを再確認して共有し、未来へ挑戦を続けていくため、さまざまな記念事業を実施しました。

記念式典で展示した天秤棒を担ぐ近江商人の行商姿



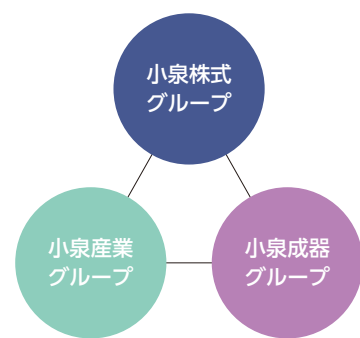
登録有形文化財に
登録された滋賀県東近江市にある
小泉重助家本宅に梅田社長を
はじめ社員が来訪

「三方よし」「新しい着眼と独自の発想」という 300年続くDNAを共有し、未来志向のメッセージを発信

記念事業を実施する上で、私たちが心に留めたのは、過去を振り返るだけでなく、300年にわたって企業として存続してきた意味を共有した上で、今後、何をしていくべきなのかを発信する未来志向でした。

その想いを込めたのが、2016年5月に発刊した小泉グループ創業300周年記念社史「未来への滑走路——DNAを掘り起こし、磨け」です。そこで明らかにされているDNAのひとつは、「売り手と買い手の取引が世間の利益につながらなくてはならない」という近江商人の「三方よし」という考え方です。この考え方は、現在も小泉グループの経営の基本となっています。もうひとつのDNAは、近代小泉グループを発展させた三代目小泉重助が打ち出した「特殊特微品主義」です。「特徴ある特殊品を生み出すことが、小泉商店の未来を決める」という言葉は、現在もグループの経営理念にある「新しい着眼と独自の発想」として受け継がれています。そして、これら2つの理念を実践する上で、重視されてきたのが、商人道を歩む人間としての「人格」です。「お客様に信頼されるためには、人格を磨き続けなくてはならない」という考えは、小泉グループの

■ 小泉グループ



■ 小泉グループ 創業300周年 記念社史 「未来への滑走路」



■ 大阪市営地下鉄 御堂筋線 本町駅の交通広告



■ 新聞広告



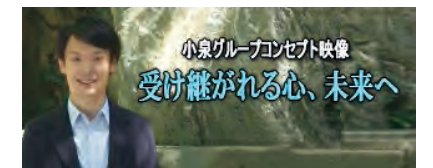
社は「人格の育成向上」に表されています。

記念社史では、300年にわたって存続する企業力の源泉をひも解くと同時に、未来に向けたメッセージを3グループの社長による鼎談形式で巻頭に掲載。グループ全社員に配布し、社員研修の場などで活用しています。

記念社史のエッセンスを映像化し 記念式典で取引先様や関係者に披露

記念社史のエッセンスを20分ほどにまとめた「創業300周年——受け継がれる心 未来へ」という小泉グループのドキュメンタリー映像も制作し、自社ホームページと動画共有サイトのYouTubeで配信しています。ナビゲーターには、NHKのドラマ「あさが来た」で活躍された俳優の久家順平さんを起用。グループ各社に流れるDNAとは何か。300年にわたる信頼はどこから生まれてくるのか。久家さんがグループ発祥の地を訪ね、一つひとつ解明していく仕立てとなっています。

2016年7月21日に大阪のリーガロイヤルホテルで開催した記念式典では、プロローグでこの映像を上映し、大勢のお客様から感慨深いご感想をいただきました。社員からも「知らないことがたくさんあった」「会社を見直した」などの声が聞かれ、映像を通じてそれぞれに300周年の意味を噛みしめてもらったようです。記念式典は、お取引先様への謝意の表明と今後のご愛顧のお願いを目的としたもので、お取引先様や協力工場、金融機関、大学関係のほか、社員、OBを合わせ、約500名が参加して開催されました。



小泉グループコンセプト映像「受け継がれる心、未来へ」
<https://www.youtube.com/watch?v=rXZooVC4u4w>

STAKEHOLDER'S VOICE 人を大切にしてきた企業姿勢が 今日の発展の源泉だと実感しました

小泉グループ300周年、おめでとうございます。映像への出演を通じて強く感じたことは、「人を大切にする企業」というイメージです。商売の根本は人と人とのつながりにあり、そのつながりを大切にしてきた結果が、300年にわたって小泉グループを発展させたのだと感じました。まずは人として向上し、お客様のことを第一に考えて行動する。こうした企業が増えていけば社会も変わるのではないかと思います。小泉家での撮影では皆様のおもてなしに感動しました。人と共に成長する小泉グループの、今後の益々のご発展をお祈りしております。



俳優
くが 久家 順平 様



小泉成器(株)
商品事業部
広報・販促企画課
玉置 景子

KOIZUMI'S VOICE

何世代にもわたり荒波を乗り越えてきた会社で、
今、ここで働いていることに感謝しています

記念社史「未来への滑走路」を読んで、300年という長い歴史の中で、たくさんの荒波を乗り越え成長してきたことを今の時代に伝えていこうという3社長の熱い想いを感じました。そして、コイズミの歴史とは、その時代時代に合った商材を探し出すことで、いつも世に必要とされてきたことだと学びました。このような会社で今働けるということに感謝し、私も300年を迎えたコイズミのように逞しく成長していきたいと思っています。

小泉産業(株)
グループ経営統括部
総務室 室長
杉原 隆文





企業の社会的価値と信頼の証である300年という年月をかみしめ、一人ひとりが未来につなげていくために

小泉産業では2012年から児童養護施設への「デスク寄贈活動」を続けていますが、グループ内の他の会社にも呼びかけ、小泉グループとしての活動に拡大していくことも300周年事業の狙いのひとつでした。その結果、小泉成器の参加が決まり、2015年より小泉産業、小泉成器の両社協力による活動として実施しています。

300周年をモチーフとしたシンボルマークも開発し、告知活動にも取り組みました。社員の名札や名刺に印刷して、お客様や関係者の皆様に「感謝と飛躍」を表明する活動は、社外への告知効果以上に、社員自身が300年の意味を考える良い機会になりました。300年の歴史を持つ企業にいる自分を振り返り、未来に対して自分はどうかあるべきか、どうありたいのか。先人・先輩の手から手へ引き継がれてきた想いや理念を、未来の後輩にどう引き継いでいくのか。そういったことを一人ひとりがよく考え、実践していくことが大切であり、それが次の300年を作っていくことにつながると考えています。

KOIZUMI'S VOICE

先人が築いてきたお客様との信頼関係を次の世代につなげていきたい

記念社史「未来への滑走路」を読んで、300年間、さまざまな荒波を乗り越え成長してきた会社の歴史の重みを再確認しました。「小泉重助展」では、実際の古文書や道具、写真を通して、社史を読むだけでは伝わらない先人の生き様を見られたのがよかったです。300周年のロゴ入り名刺やバッジのおかげで、お客様との会話が増えました。先人・先輩たちが築いてきたお客様との信頼関係という財産を守りつつ、さらにそれを磨き上げて、次の世代にもつなげていきたいと思っています。



近江商人博物館が「小泉重助展」を開催

2016年9月17日から11月27日にかけて、近江商人発祥の地、滋賀県東近江市にある「東近江市近江商人博物館」で、小泉グループの礎を築いた三代目小泉重助の展示会が開催されました。幕末から明治、大正、昭和という激動の時代を乗り越えてきた小泉家。幕末の禁門の変で焼けた京都店の様子を伝える当時の瓦版や、海外視察を精力的に行った小泉重助の洋行カバンなど、国の登録有形文化財に登録されている小泉重助家本宅で見つかった貴重な史料が数々紹介され、小泉グループの関係者の多くが見学しました。



STAKEHOLDER'S VOICE

激動の時代を生き抜いた
小泉家の人々の生きた証を展示

災害、戦災、大不況など数々の危機に小泉家の人々があきらめずに立ち向かってきた結果が、今につながっていることを伝えたいと、本展示を企画しました。古文書などだけでなく、丁稚部屋の格言、小泉重助の妻の裁縫箱の中身など、人々の生きた証を展示し、先人たちの生き様がよくわかるよう工夫しました。地元の方の関心も高く、会期中は通常の倍ほどの来館がありました。私自身、展示会の運営を通じて、300年続いてきたという奇跡のようなたくましさを感じました。時には先人のメッセージを振り返り、新たな歴史を築かれることを期待いたします。



「違う発想」が生み出してきた KOIZUMIブランドのあゆみ

KOIZUMIブランドの製品は、常に新鮮な驚きと共感をもって市場に受け入れられてきました。
これからも「違う発想」で、人と社会に夢と感動を提供し続けてまいります。



社長が語る コイズミ照明(株)のこれから

新たな「あかり文化」の創造拠点、 R&Dセンターを基地に モノ作りと働き方の改革に挑戦

照明制御の国際規格「DALI」を導入した 実践型ショールームとして、未来のオフィスの姿を提示

2016年度は、未来に向けた投資の中で最優先してきた、新たなあかり文化の創造拠点「コイズミ照明R&Dセンター」(大阪市東成区・緑橋)を開設することができました(詳細はP23-26)。コイズミ照明が普及を進めている国際規格の照明制御システム「DALI」を導入した環境調和型のオフィスには、東大阪市と大阪市内に分かれていた商品開発や品質管理、営業などの全部門が移転、集結。「DALI」を使った照明、空調、ブラインドの総合制御による省エネ、低コストのオフィスのあり方とともに、生産性向上を目指した空間レイアウトなどについて検証し、オフィスそのものが実践型のショールームとなっています。また、新商品についてすべての検査が社内で行えるよう、LEDに対応した最先端の検査機器を導入しました。

オープン前からゼネコン、設計事務所等のお客様からの見学申し込みが相次いでおり、今後、お客様、協力工場と一体となってパートナーシップを発展させるモノづくり拠点としての機能を発揮させてきたいと考えています。



コイズミ照明R&Dセンター



これからのオフィスのあり方を提案するフロア

コイズミ照明(株)
代表取締役社長

梅田 照幸

非住宅の未開拓市場や、体制構築が進んだ海外市場で 積極的な事業展開を図っていきます

2016年度の業績につきましては、減収増益となりました。店舗・施設の新規出店がいったん下火になったことが減収の主な要因です。一方、住宅は新築着戸数が落ちる中で、賃貸住宅での需要が伸び、増益につながりました。「DALI」システムについても、2016年度、オフィスやホテルなどで急速に採用が進み、今後、さらに期待ができる分野です。

継続的な成長を図っていくためには、国内で取り残している市場、例えば、トンネル・道路照明、外構、オフィスといった分野で顧客開拓をしていく必要があります。オフィスについては緑橋の新社屋で、中小オフィスビルの照明のあるべき姿を提示していきます。

海外では10年前に設けた上海の拠点で人が育ちつつあり、現地社員を含め250名ほどの体制ができあがってきています。これまでは現地の日系企業様への提案が中心でしたが、現地企業との関係もできつつある中で、今後、新たな拠点づくりも含め、さらに積極的な展開を図ることで、業績に貢献していきます。

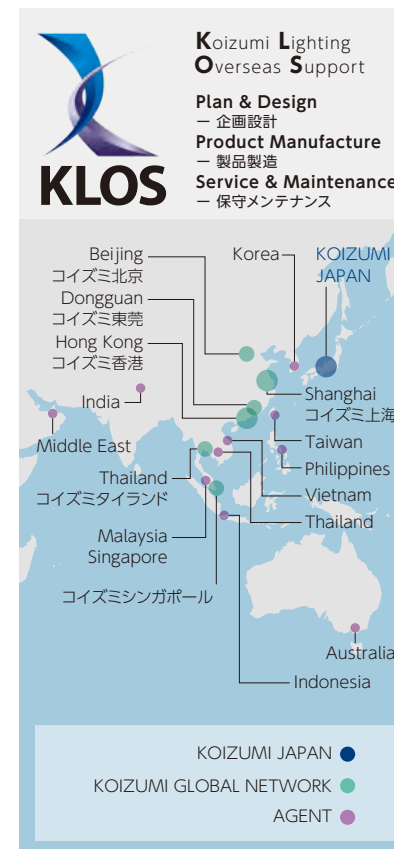
「コンカレント開発」へとシフトして生産性向上を図り、 さらに高効率かつ快適なLED照明開発に取り組みます

利益を生む企業体質を作るには、生産性の向上を図ることが欠かせません。そこで、緑橋の「R&Dセンター」を拠点に、モノ作りの方法を根本的に見直したいと考えています。従来のモノ作りは、マーケットリサーチに始まり、企画、設計、デザインというフローで行っていました。それを企画が出ると同時に設計、デザイン、試作が一斉に動き出す「コンカレント開発」へとシフトすることで、開発期間の短縮と生産性の向上を図っていきます。

試作段階で、新センターに設けた国内トップクラスの検査・分析機器を用いて実証を重ね、LEDをさらに高効率なものに進化させていくことは、当社の使命です。LED照明器具は、今年度に施行される次期省エネ法トップランナー基準の特定機器の対象となり、2020年度を目標年度とする固有エネルギー消費効率の目標基準値が定められました。この基準に対応する高効率かつ、当社が追求してきた「あかりの質」にこだわったLED照明開発に取り組んでいきます。

同時に、2015年度にスタートした女性社員戦力化プロジェクトなど、働き方の改革に全社挙げて取り組み、環境ソリューション企業として継続的な成長を図っていきます。

コイズミ海外サポート体制



社長が語る コイズミファニテック(株)のこれから

学習家具事業頼みの 事業構造の転換を加速させ、 成長市場での売上拡大を目指します

縮小する学習家具市場で売上を微減させたものの コントラクト家具の売上が急伸び、増収増益に

当社は、学習家具のファーストコールカンパニーとして半世紀の歴史を持っています。しかしながら、少子化に加え、新入学時における購入率は年々下がり続けているのが現状です。2016年度も、その影響を受けて業界全体が伸び悩む中、当社は増収増益を収めることができました。学習家具はやや売上が減少したものの、それを補うものとして、商業施設やホテルといったコントラクト(施設)市場向けの別注家具が顕著に伸びたことが大きな要因です。

特にグループ会社の(株)ホリウチ・トータルサービス、コイズミ物流(株)との連携によって、ホテル物件の受注が伸展しました。2015年に設立したタイの自社工場で商品を作り、コイズミ物流が運び、ホリウチ・トータルサービスで組み立て、設置まで行う——。このようにモノづくりから輸送、設置までグループですべて行える会社は家具業界では他にありません。お客様から高い評価をいただき、認知度が高まった実りの多い1年でした。

■ コントラクト家具事業における グループシナジー

コイズミ照明株式会社
「あかり文化」の創造を目指して

コイズミ物流株式会社
最適ロジスティックを提供



総合展示会[KOIZUMI TAKE OFF FAIR 2017]を開催



海外工場でのQC会議

ファニテックグループ100億円の売上を視野に、 コントラクト家具における品質管理体制を強化

2016年度の売上高における事業構成は、比率の高いものから順に学習家具、書斎家具、シニア家具、住宅家具、コントラクト家具となっています。

今後は激変する市場環境に対応すべく、コントラクト市場、介護市場など新規チャネルでの売上拡大を図っていきます。中でも最大の成長市場と捉えているのがコントラクト家具です。当社では従来からKIS規格という独自の品質規格を設けていますが、コントラクト家具においても最も重視しているのが品質です。2017年度からはタイの工場に品質管理の責任者を常駐させて、品質管理体制を強化しています。

中期経営計画の最終年にあたる2017年度は、こうした事業構造の転換のスピードを加速し、ファニテックグループとして100億円の売上を目指します。

東日本での売上構成比を高めるべく、 全事業の製品を揃えた総合展示会を東京で開催

コア事業のひとつであるシニア家具については、自立支援から在宅介護に無理なく移行できる、業界初の介護ベッドを開発。高齢化を迎えつつある団塊の世代に向けた積極的な提案に取り組んでいきます。さらに、今後はオフィス家具についても、オフィスチェアのほか、会議用テーブルやスタッキングチェアなど、スモールオフィスに対応できる商品ラインナップを拡充していく計画です。

こうした事業展開をアピールすべく、2017年度5月に自社のすべてのジャンルの家具を揃えた総合展示会を東京で開催しました。合わせて2017年度からは首都圏の事業所拠点を埼玉県草加市から都内(中央区日本橋)に移転し、東日本地区での販売を強化していきます。

一方、中国では大連に販売会社を構えて8年目になりますが、学習家具の売れ行きが好調です。現地仕様の製品とともに、ライト付デスクという特徴的な商品に人気が集まっています。今後は製品の品質の高さを前面に打ち出し、KOIZUMIブランドの認知度アップを図っていきます。



コイズミファニテック(株)
代表取締役社長

川上 隆司

社長が語る (株)ハローリビングのこれから

住宅・店舗・施設市場における機器・インテリア・ソフトの総合提案力の充実に向けて取り組んでいきます

住宅設備機器の販売に加え、施工力を高めマンションの設計変更という事業に挑戦します

2017年度で37期を迎える当社は、照明器具、空調機器など、暮らしを快適にする住宅設備機器の提案・販売事業を全国で展開し、取り扱い製品を広げてきました。昨今、住宅、マンションの着工戸数が伸び悩む中で、当社では住宅のリフォームにおける設備入れ替えや、競合他社にない新規商材の拡大、提案力・施工技術力の向上に取り組んでいます。現在はマンション入居者様向けの説明会による対面相談と提案が主流ですが、今後は、販売だけではなく、施工も安心してお任せいただけ、設計変更の要望にも対応できる会社を目指していきます。そのため今期からマンション事業推進室を設置し、個々のお客様の意向を吸い上げ、開発業者にフィードバックして設計変更をしていくという新しい事業スタイルに本格的に挑戦していきます。

新事業を軌道に乗せるためにも、社内の人材育成とともに、各地の建築士やインテリアコーディネーターといった専門家のネットワーク化を進め、全国展開という自社の強みを活かしながら各地のお客様にご満足いただける体制を構築していきます。

引き続き需要が見込める店舗、施設の省エネ改修をコイズミ照明と連携して進めていきます

一方、非住宅分野では、店舗、施設の照明器具や空調機器の入れ替えによる省エネ改修にも力を入れています。大型商業施設などのLED照明器具への入れ替えはほぼ一巡しましたが、倉庫、工場などの省エネ改修は、国の補助金政策や光熱費コストの削減を図りたい企業側のニーズもあって、今後も伸びていくとみられます。グループのコイズミ照明と連携し、照明器具設計からプランニング、販売・施工まで一貫してできるという強みを活かし、いっそうの安心感をお客様に提供していきます。

今期は10月に当社と九州の子会社(株)サンシャインとの合併を予定しています。これによって東北から九州までほぼ全国で、今まで以上に一体感のある事業展開ができるようになります。各拠点で既存のお客様に対するサービスを拡充するとともに、お客様の幅を広げ、「住宅・店舗・施設市場における機器・インテリア・ソフトの総合提案力」の充実に向けて取り組んでいきます。



インテリアエレメント総合提案企業としてリーディングカンパニーを目指す

(株)ハローリビング
代表取締役社長

石尾 泰裕



社長が語る (株)ホリウチ・トータルサービスのこれから

強みを持つ3つの分野でワンストップサービスを提供できる体制づくりに取り組んでいきます

グループ会社との協業によるシナジーを発揮し、業界初の挑戦にも成功を収めた実り多い1年でした

ホテルや商業施設などへの什器・家具等のセットアップ(搬入・設置)事業を展開しているホリウチ・トータルサービスは、2013年に小泉産業グループに加わった会社です。以来3年目となった2016年は、グループ各社との連携によるシナジー効果が表れ始めた1年でした。具体的には、コイズミファニテックやコイズミ物流との協業が進展。ホテル等の据付家具の製造をファニテックが、輸送をコイズミ物流が、そして現場への搬入・据付を当社が担うという、オールコイズミでお客様に価値を提供する機会が増えてきました。来期はこうした協業が本格化し、売上にも大きく貢献してくると思っています。

また、2016年は、JR名古屋駅前の大規模商業施設建設に際し、150に上る店舗の資機材の搬出入を当社1社で担うという業界初の試みに挑戦し、成功を収めることができました(P31-32参照)。この経験で得たノウハウを今後、都心の高層ビル建設における資機材搬出入において課題を抱えるお客様にお役立ていただこうと考えています。



名古屋駅前大規模商業施設の建設資機材搬出入事例

(株)ホリウチ・
トータルサービス
代表取締役社長

権藤 浩二



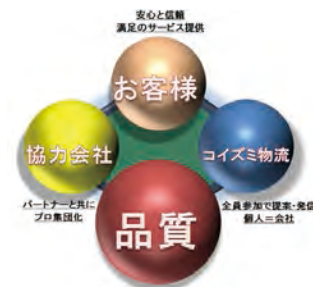
施工品質の向上や協力業者様とのパートナーシップ構築や、社員の処遇改善など、事業の基盤強化を図っていきます

お客様の期待に応えるため、2017年度は「売上50億円に向け、基盤強化を図る」を経営方針に掲げています。実現に向け、従来から強みを持つ3つの分野(ホテル・病院、商業施設・オフィス、劇場・競技場)に焦点を絞り、営業活動を強化しています。同時に、施工品質の向上を図るため、2016年に東京に新設した施工管理室のもと、各分野で豊富な経験を持つ社員による技術研修を今後さらに強化していきます。

当社事業に欠かせないものは、「人」に他なりません。全国の協力業者様とのパートナーシップ構築はもちろん、社員、スタッフが安心してやりがいを持って働き続けられるよう、福利厚生や人事評価などの処遇改善にも取り組んでいきます。創業以来、最も大切にしてきたお客様との「信義」。「ホリウチに任せれば安心」という声を誇りに、グループ会社とも協業しながら、商品の通関からデバンニング、保管、搬入、設置、廃棄まで、ワンストップでお任せいただける体制づくりに取り組んでいきます。

社長が語る コイズミ物流(株)のこれから

物流品質と安全を最優先にした 「物流のプロ集団」を目指し、 事業拡大に積極的に取り組んでいます



物流品質をすべてに優先させる「物流のプロ集団」

各業界に特化した物流サービスの提供と 外販事業の拡大に注力していきます

コイズミ物流では、物流品質と安全を第一にした「物流のプロ集団になる」を2017年度までの中期経営方針に掲げています。2年目である2016年度は計画こそ未達でしたが、売上ベースで前年度を上回ることができました。4月には組織をグループの事業会社ごとに分け、各社と関連する業界のお客様を含め、各業界の事業特性に応じた最適な物流サービスを提供できる体制を構築。下期からはその成果が徐々に表れ始めました。

また、外部企業様の物流受託については、「自主自力経営を目指す」という方針のもと、3PLの拡大に継続して注力しました。保管、荷役、輸配送をトータルに受託することで、お客様が抱える課題を解決し真のニーズに応えることが可能になります。2017年度は、この外販事業の売上構成比率を28%とすることを目標に、関東と関西で倉庫拠点を大幅に拡大するとともに、協力運送会社様の新規開拓による全国輸配送ネットワークの拡大に取り組んでいます。

メーカーの事情に精通した物流会社である強みを発揮し、 お客様、協力会社様、当社が満足できる物流の実現を目指します

2016年度は、前年度に立ち上げた海外事業部門のもと、海外コンテナの受け入れも拡大しました。海外工場におけるコンテナ積み込みから一貫して関わることで、より無駄のない荷受け、配送、リードタイムの短縮などに貢献していきます。また、今後、国内における事業領域を広げるため、工場・メーカーからの仕入れを取り扱う調達物流の機能も強化していきたいと考えています。

昨年度、新たな動きとしてコイズミファニテック(株)のコントラクト市場への事業拡大に伴い、商品は同社が、輸送は当社が、商品の搬入・据付は(株)ホリウチ・トータルサービスが行う、3社によるシナジーが進展しました。コイズミグループの各事業の物流を担う当社は、事業会社との課題共有や情報共有を密にできるため、課題を掘り下げる力や対策を打つスピードが自ずと高まっています。これがメーカー系の物流会社としての強みですが、この強みを外販事業にも発揮し、KOIZUMIブランドが掲げる「_違う発想がある」を具現化し、お客様、協力会社様、当社にとって「三方よし」の物流の実現に努めていきます。

コイズミ物流(株)
代表取締役社長
八田 康

グループ各社の取り組み

P23 **コイズミ照明(株)の取り組み**
「DALI」を基軸としたLED開発や
知的生産性向上に寄与する
「あかりラボ」「実証・体験型オフィス」として

Ecology
環境

P27 **コイズミファニテック(株)の取り組み**
時代の変化を捉えた
「5つの事業」で
新しい「モノ・コト」を発信

Partner
パートナー

P30 **(株)ハローリビングの取り組み**
全国対応できる強みを活かして
マンション開発業者様と連携し
お客様目線で住宅設備機器を提案

Comfort
快適

P31 **(株)ホリウチ・トータルサービスの取り組み**
内装資機材の搬出入をワンストップで
請負い、都心の大規模複合施設
特有の難題を解決

Partner
パートナー

P33 **コイズミ物流(株)の取り組み**
照明、家具、家電の各業界特性に
特化した物流サービスを提供

Partner
パートナー

P35 **小泉産業(株)の取り組み ①**
小泉成器(株)との協力で推進
児童養護施設への
「デスク・家具調コタツ寄贈活動」

People
人

P37 **小泉産業(株)の取り組み ②**
多様性を活かす
小泉産業グループ
「ダイバーシティ推進基本計画」を策定

People
人

KOIZUMI

「DALI」を基軸としたLED 開発や知的生産性向上に寄与する「あかりラボ」 「実証・体験型オフィス」として

Ecology
環境

さらなる性能向上が求められているLEDの革新的な研究開発を目指して、コイズミ照明(株)が開設したのが、研究開発拠点「R&Dセンター」です。社員自らが働き方を考え実現したオフィスには、最新の制御システム「DALI」を導入。省CO₂や快適で生産性の高いオフィスのあり方などを検証し、お客様へのより良い提案に活かしていきます。

LEDに特化した最新の試験設備を導入し、次の「あかり文化」を創造する研究開発拠点に

コイズミ照明は従来から、空間を快適にする「あかり」としてLEDの光品質を追求し、デザイン性や調光・調色性に優れた付加価値の高い商品を開発してきました。しかしながら、LEDの基本性能が向上するとともに、さらに高効率かつ高付加価値なLEDが求められているのが現状です。こうした状況を捉え、照明専門メーカーとしてLEDを革新的に研究開発していく「あかりの文化創造拠点」として開設したのが、今春、完成した「R&Dセンター」です。

地上6階の建物は1、2階を試験室フロアとし、LEDに特化した最新鋭の試験設備を設置。高い精度の評価・検証がすべて社内で行える体制が整いました。分析・評価機器、信頼性試験装置に加え、一般社団法人 日本照明工業会の指定試験所として必要な分光配光測定システムの配備を終え、近い将来には、工業標準化法(JIS法)に基づく試験事業者登録制度であるJNLAによる認定取得を目指しています。

建物の4～6階部分はオフィスフロアで、これまで分散していた商品企画や開発設計、品質保証、営業、お客様相談室などの各部門を、本センターに集約しました。開発部門のエリアには照明器具を取り付けてすぐに体感できるスペースを併設。これらによって、お客様や市場の声をもとに企画した新商品の設計、デザイン、試作、評価・検証が、格段にスピードアップすることになります。

最新の試験設備を導入



試験室

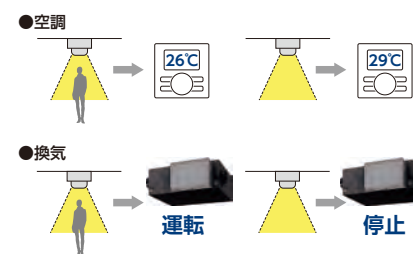


天井昇降装置

「DALI」信号方式による空調・照明連動制御システム

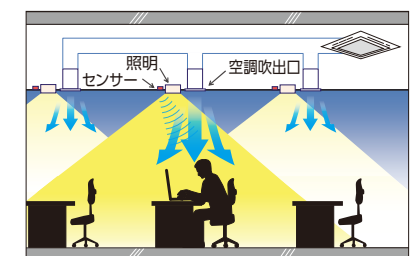
省CO₂制御

人感センサーと空調連動により、人の在、不在に合わせて細やかな制御を行うことができます。



快適性の向上

「DALI」センサーと照明・換気・空調の連動により、省エネと快適性の両立を図ります。



無線化による省施工

無線センサー・スイッチの導入により、配線や取付の手間を省きます。急なレイアウト変更などにも容易に対応できます。



照明・空調・ブラインドを一括制御するシステム「DALI」を導入し、オフィス空間の省エネ性と快適性の向上を検証

LEDの進化で欠かせないのが、器具の性能向上だけではなく、制御システムとの連動です。空間の用途や目的に応じて、照明だけでなく、空調やブラインドなども同時に制御することで、さらなる省エネ性や快適性の向上が可能になるためです。特に消費電力の40%を照明が占めるオフィスビルでは、制御システムとの連動が省エネ性の向上に大きく寄与します。コイズミ照明では、この制御システムとして、世界で主流となっている国際規格の「DALI」を採用。2015年度から「DALI」に対応したLEDの開発・販売を開始し、現在、500を超えるアイテムを販売しています。

「DALI」の特徴は、「DALI」対応の器具であればメーカーを選ばないことに加え、器具を個別に調光・調色の制御ができること。さらに、ビルのエネルギー管理システム(BEMS)と連動させることで、空調や換気なども一括制御できます。双方向通信によって電気使用量の監視や器具の不具合のチェックなども1カ所で行うことができるため、施設管理コストの削減にも貢献します。

「R&Dセンター」のオフィスフロアは、この「DALI」を設備制御の基軸に据え、照明と空調、ブラインドを一括制御しています。電力使用量のデータや社員の生の声から「DALI」の使い方を検証する「実証・体験型オフィス」として、お客様にも見学していただける「生きた技術ショールーム」の機能も兼ねています。

視線と動線をつなげるコミュニケーション階段

KOIZUMI'S VOICE
モノからコトへのソリューション活動で、
今までとは違うビジネスを
確立していきます

今回の建設計画では、制御関連の先行技術開発を担当していたことから、「制御分科会」のメンバーとして参加しました。新しいR&Dセンターに、当社が推進している国際規格である「DALI」を全面的に導入し、知的生産性向上や他設備との連携などさまざまな実証実験を行ないながら、お客様に自信を持って提案できるようにしたいと希望し、すべて実現することができました。また、「DALI」以外の照明制御機器を各会議室や商談コーナーに取り入れることができました。今後は、この新しいオフィスで、デジタル事業という新しい分野へのチャレンジを継続していきます。



コイズミ照明(株)
特機商品部
デジタル事業推進室
室長
吉久保 光宏



コイズミ照明(株)
LCR大阪
Lighting Designer
河野 昂太郎



コイズミ照明(株)
商品部 デザイン室
岡山 顕子

VOICE

5F南側の緑が見えるソファで スケッチするのがお気に入りです

今回の建設計画では、若手を中心に関連部署からメンバーが集まった「ワークスタイル分科会」に参加しました。今までの働き方の振り返りを行うとともに、理想的な働き方・コミュニケーションについての意見交換を行い、その内容を受けて、実際にどういった家具レイアウト、家具選定を行うのかについて分科会メンバーへのヒアリングと社内外の調整を中心に活動しました。分科会での意見を具現化できたのは、5F南側のクリエイティブルーム。LCRや特機商品部、商品部、開発部の「見て刺激になる」サンプルや事例の展示をし、情報共有とお互いの刺激の場として、これからさらにみんなで改良していきたいと考えています。

照明と自然光をさまざまに組み合わせた空間を作り 社員自らが視環境の快適性を検証

「DALI」の導入にあたっては、各業務の特性に応じて調整した視環境を実現できるよう、「DALI」対応の照明器具をフロアごとに新たに開発しました。例えば、PC作業や事務作業がしやすいフラットな光を創出するベースライトや、まぶしさを抑え、什物のレイアウト変更にも対応しやすいダウンライトなどです。いずれも落ちついた電球色から爽やかな昼白色までの間で色温度を、思いのままに制御できます。

現在、色温度については、朝の出勤時には電球色と昼白色の中間色、朝礼後は昼白色に、休憩時間や退社時には電球色に緩やかに変化するように設定しています。また、窓から入る自然光の変化を取り込んだ上で、照明環境を総合的に維持しています。これらの試みが生体リズムの整調やストレス軽減にどんな効果を発揮するのかを探ることにしています。まだ、運用開始直後ですが、社員からは「夕方、電球色になると帰りたいなってしまう」「自然光と連動した明るさの変化が心地いい」などさまざまな声が寄せられています。これらの声のフィードバックを繰り返すことで、センターの目的のひとつである「知的生産性の向上」がどのように実現するのか。検証の結果を、より明確な根拠としてお客様への提案に活かしていきたいと考えています。

また、「DALI」をセキュリティと連動させ、最終退出者の退出と同時にオフィス内の電源を切り、消し忘れを防ぐなど、さまざまな「DALI」の可能性を追求していきます。

R&Dセンター建設プロジェクト体制



若手社員が中心となって理想の働き方を検討し、 知的生産性を高めるオープンなオフィス空間を実現

働き方を軸にしたオフィスの空間設計については、設計段階から「ワークスタイル分科会」を立ち上げ、どんな働き方をしたいか、どんなオフィスにしたいか、社員が意見を交換。若手を中心にした社員の声は、設計・施工を担う(株)竹中工務店様にフィードバックし、自分たちの納得できるオフィスを創り上げていきました。

例えば、開発部門からは、「でき上がった照明器具をすぐに体感して、次の開発に活かせるような場所がほしい」という声が上がリ、クリエイティブルームとして実現しました。器具を取り付けて試せるだけでなく、ユニークなデザインの家具を配置し、思考の集中や発想の転換を促す場となっています。

「コミュニケーションを活性化させたい」という声からは、席を固定せず自由に選べるフリーアドレスなど、オープンでフレキシブルな環境が実現。建物中央部の開放的な吹き抜けは階段でつながれ、社員間のコミュニケーションや情報共有を促進します。「今までと違って、頻繁に営業のフロアに行って打ち合わせができるため、仕事のスピードアップが図れています。また、自然光が感じられるのは気持ちがよく、集中したいときは自席を離れてこもれるスペースがあるのはいいですね」と語るのは、センターの照明計画に携わった河野昂太郎。「私たち社員がこのオフィスで体感したことを、データも含めて検証し、これからのオフィスのあり方に新たな提言をしてきたいと考えています」。

STAKEHOLDER'S VOICE

“ものづくり”にこだわりを持つ両社が親和性を発揮し、 高い次元のR&Dセンターが完成しました



株式会社竹中工務店
ワークプレイス
プロデュース本部
主任

岡田 真幸様

ブランドステートメント「_ 違う発想がある」を実践する新R&Dセンター実現に向け、10年20年先の将来像を描き切ったスタートでした。営業・品質保証・企画開発・LCR・生産管理などの部門横断メンバーが、新センターのあるべき姿について意見をぶつけ合い、結果が常にタイムリーにスピーディーに建築計画やワークプレイス計画へフィードバックされたプロジェクトでした。歴史ある会社であるにもかかわらず、新しい考え方や変化に対して柔軟で、近年、執務者の知的生産性向上に寄与するプランとして注目を浴びている「ABW(アクティビティベース型ワークプレイス)」の提案に対してご賛同の方が多かったのは驚きでした。これからも社員ひとりひとりが輝き、人が生活する空間へ、新しい光を届けられることを心から期待しています。

VOICE

この快適な環境を積極的に活用し、 アウトプットのクオリティを 高めていきます

「建築・照明分科会」メンバーとして、竹中工務店様の設計チームとコンセプトの整合、プランの検討を実施しました。新しいオフィスは、プランニング段階で検討していた内容が実現され想像以上に快適です。打ち合せの時、集中してアイデアを出す時、詳細な形状を検討する時というように仕事内容によって場所を選べるため、次の仕事に早く取り組めるようになりました。調光・調色プログラムによる照明制御は、オフィス環境にリズム感を作り出す格好の事例となり、新たな提案につなげたいと考えます。



コイズミ照明(株)
商品部
デザイン室 室長
川谷 融

時代の変化を捉えた 「5つの事業」で 新しい「モノ・コト」を発信

Partner
パートナー

子どもの成長を支える学習家具事業で50年以上にわたり培ってきたノウハウを活かし、シニア家具や、施設向けの
コントラクト家具など、成長市場での事業拡大に取り組んでいます。時代の変化を捉えた幅広い商品力を2つの展示会
でアピールしました。



5つの事業ごとにスペースを
設けて展示しました

取引先様に、新しい取り組みを知っていただく 総合展示会「KOIZUMI TAKE OFF FAIR 2017」を開催

コイズミファニテック(株)では、毎年、学習家具の展示会を大阪で開催してきました。2017年度は、学習家具だけでなく、書斎家具、シニア家具、住宅家具、施設(コントラクト)家具という「5つの事業」の商品を紹介する総合展示会「KOIZUMI TAKE OFF FAIR 2017」を東京で開催しました。

学習家具市場では、少子化や新入学時点での買い控えなど、社会構造や価値観が大きく変化しています。展示会では、そうした変化を捉え、他の分野についてスピードを上げて取り組んでいく新たな方針と姿勢を示しました。展示会には家具販売店のほか、介護施設や商業施設のオーナー、設計事務所、内装業者、通販事業者など、さまざまな業種のお客様に多数ご来場いただきました。総合展示会としたことで、学習家具以外にも当社が幅広い商品を取り扱っていることを知っていただきました。

当社は、今後特に商業施設やホテル向け家具等のコントラクト家具事業および、シニア家具事業の需要増加に対応して事業拡大を目指していきます。

東京・飯田橋で総合展示会を開催



デスク、ワゴン、シェルフ等の組み合わせ を自由に選べる「ルトラ」シリーズ



天然木「イースタンアッシュ」採用 ダイニングシリーズ「キコリ」



フェリシモ様と 共同開発した「S RACKシリーズ」



5つの事業それぞれで、お客様に喜ばれ、 信頼されるブランドメーカーを目指して

入学時点での学習家具の購入率は、10年前で60～65%ほどでしたが、2015年度には45%にまで減少しています。主な要因は、リビングやダイニングで勉強させる、大人になってからも使えるものを後で買うといった親御さんが増えているためです。

そこで、2017年度の学習家具新商品では、「欲しいときに欲しいものを」といったニーズに対応し、デスク、ワゴン、シェルフなどの組み合わせを選べるシリーズを投入したほか、学習イスでは、小学校高学年～中高生の買い替えをターゲットにしたシンプルなシリーズも投入しました。また、通販事業者様と学習環境の変化について一緒に考え、働くママたちの意見を採り入れて開発した新しいマルチラック「S RACK シリーズ」も発売しました。

書斎家具については、2016年度は売上ベースで前年度比2割増と大変好調でした。シンプルで落ち着いたデザインが好評で、今後、開発を強化していきます。

シニア家具については、2年間にわたって構想を温め、開発した業界初の電動リクライニングベッド「ケアアップ」シリーズを総合展示会でも発表しました。組替え型の学習デスク「ステップアップデスク」の考え方を活かしたもので、後からサイドレールや、昇降ユニットの追加ができ、状況に合わせてフレキシブルに使いいただけるようになっています。

生活スタイルの変化に合わせて使い方が 変えられる業界初の電動リクライニング ベッド「ケアアップシリーズ」



サイドレールを追加し
「自立支援ベッド」に



昇降ユニットを追加し
「在宅介護ベッド」に



コイズミ
ファニテック(株)
学習商品部
商品開発室
奥野 桃加

KOIZUMI'S VOICE 自信を持ってお客様に 商品の魅力をお伝えすることができました

学習デスクマット・デスクカーベットのデザイン担当として、総合展ではキャラクターの情報や今回出展した商品の説明をしました。私たちの扱っているキャラクターの著作権先様はすべて東京のため、今回の総合展では多くの著作権先様にお越しいただくことができました。「学習机だけでなく、こんなにも幅広くたくさんの商品を作られているんですね」と驚かれる方が多くいらっしゃいました。実際に商品を見て、お客様の反応やご意見をその場でいただけたので、納品までの最終デザイン修正や来年度に向けた新商品について多くのことを吸収することができました。「自分の仕事を楽しむ」この気持ちを忘れずにこれからも取り組んでいきます。

コイズミ
ファニテック(株)
学習商品部 部長
北川 康文



株式会社フェリシモ
生活雑貨事業部
グループリーダー
廣見 教子様

STAKEHOLDER'S VOICE 母と子のつながりが見える 学習机・学習コーナーの提案が増えるといいな

弊社の企画部門には、働くママ社員が多いことから、学習机を共同で企画するプロジェクトがすべての始まりでした。そこで24名の社内の働くママ、254名のお客様にアンケートを実施したところ、学習机よりもリビングに置くことができる整理棚のニーズが高いという結果になり、今回の「S RACKシリーズ」のデビューとなりました。ママ社員とお客様の学習机に対する考え方が一致するニーズを探すこと、そのニーズを分かりやすく具現化すること、さらにお客様から実際に賛同を得られるかを常に考えながら、シンプルかつユニークな解決方法を心掛けました。プロジェクトに関わるみなさまが親身になって、商品開発のアイデア出しにコメントをくださったたり、サンプル用のパーツ製作を1から試行錯誤してくださったことに大変感謝しています。



客室家具・造作備品、
パブリックファニチャーを展示

施設家具事業として、ホテル、飲食店を ターゲットにした「国際ホテル・レストランショー」に出展

施設（コントラクト）家具事業は、5年ほど前から取り組んできたビジネスですが、2013年に商業施設やホテルへの家具・什器の搬入・設置で豊富な実績を持つ（株）ホリウチ・トータルサービスが小泉産業グループに加わったことで、案件情報の共有というグループシナジーにより、2016年度は、ホテルを中心に多くの案件を受注しました。タイに自社の生産基盤ができ、品質、生産、納期、情報サービスについて、お客様のニーズに対応できる体制が整ったことも事業拡大につながっています。

特にホテルについては、訪日外国人の増加や2020年の東京オリンピック・パラリンピック需要を背景に、客室造作家具の需要は今後も伸びていくと見られます。そこで、2017年2月には、ホテルや飲食店のオーナー様向けに開催された「国際ホテル・レストランショー」に初めて出展しました。本展示会でも、モノづくりを当社が、輸配送をコイズミ物流（株）が、搬入・設置を（株）ホリウチ・トータルサービスが行う、オールコイズミによる高品質・低価格な一貫サービスをアピールし、多くのお客様から引き合いをいただきました。

ホテル、飲食店舗、店舗什器、介護施設を対象に、コントラクト事業は、3年後には売上20億円を目指します。

STAKEHOLDER'S VOICE

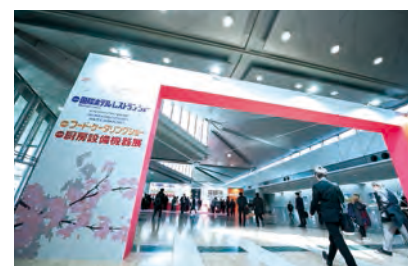
さまざまな分野の物件に対応できる力に
期待しています

コイズミファニテック様には以前よりホテル案件において協力をいただき、品質と価格面の対応力については大きな信頼を寄せています。当初は、学習機の企業というイメージが強かったのですが、現在では様々な物件に対応できる企業との印象を持っています。これからもホテルの客室や宴会場、飲食店などのFFE (Furniture Fixture and Equipment) 関連物件において、品質のよさと価格対応力に期待します。



株式会社丹靑社
コマニシャル
スペース事業部
制作工務統括部
工務購買室
購買担当課長
小池 孝章様

東京ビッグサイトに出席



コントラクト家具事業における グループシナジー



コイズミ
ファニテック（株）
東日本営業部 部長
山本 哲也



(株)ハローリビングの取り組み

全国対応できる強みを活かして マンション開発業者様と連携し お客様目線で住宅設備機器を提案

Comfort
快適

暮らしに欠かせない住宅設備機器の提案・販売・施工を全国で展開している（株）ハローリビング。マンションを購入されるお客様への住宅設備機器の販売事業では、全国規模のマンション開発業者様とタイアップし、お客様目線に立った商品を提案・販売しています。

商材開発と提案力の向上を図りながら 建設時の設計開発業務にも参入

（株）ハローリビングは、東京から鹿児島まで全国に拠点を置いているため、マンション開発業者様に対して、全国どこでも一元的に入居者説明会における住宅設備機器の提案・販売を任せられる安心感を提供できるのが、大きな強みです。実績を評価され、年々、全国規模の大手業者様との取引を増やしています。

取扱商品は、照明、エアコン、カーテン、家具など幅広く、付加価値の高い商品開発にも積極的に取り組んでいます。各分野の商品に精通したインテリアコーディネーターが、入居者様のニーズに合った商品を提案し、ご購入後の据付けまで一貫して対応しています。提案力を高めるべく、社員研修を定期的に行い、2016年度は、ますます高度化する入居者様のご要望に応えられるよう、最新の照明プランニングについて学ぶ勉強会も開催しました。

また、住宅設備機器についても全国展開のボリュームを活かせるため、業者様、入居者様、双方にコスト面でメリットが提供できるのも強みです。マンションは建設段階で、契約者様と間取りや設備、床や壁の色などを打ち合わせて決めていきます。2016年には、本来はマンション開発業者様が行うこの設計変更業務を初めて受注しました。業者様からのニーズが高いこの業務についても、今後、全国で対応できるよう専門性を持った人材の採用や育成に力を入れていきます。



KOIZUMI'S VOICE マンション開発業者様と入居者様の より良い架け橋を目指して

当社は、2017年10月に、福岡に本社を置く子会社の（株）サンシャインと合併する予定です。これによって九州でもさらに一体感を持って、マンション開発業者様、入居者様に喜ばれるサービス提供に取り組んでいける体制が整います。今後も、暮らしを便利に快適にする商材の開発と、入居者様のニーズに応じた商材の提案力の向上に努めるとともに、設計変更業務でも契約者様と開発業者様のよりよい架け橋となるように取り組んでいきます。

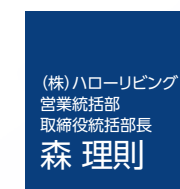
STAKEHOLDER'S VOICE

これからも良きパートナーとして、
共に成長していきたいと考えています

弊社は、売上も大切ですが、それ以上にお客様にご満足いただくことが最も重要であると考えております。ハローリビングさんとの打ち合わせを通して、同じ考えをお持ちであること、また、その誠実で丁寧な対応に感銘を受け、同じ価値観を共有できるパートナーとなり得る会社だと確信しました。また、日本全国にある各拠点間の情報交換も盛んで、社員さん同士の連携も取れており、非常に統率の取れた風通しの良い組織だと思っています。お客様への対応は常にスピード感が求められます。これからも、そのフットワークの良さ、レスポンスの速さで、お客様に満足していただける住空間創造に共に取り組んでいきたいと考えています。



株式会社
穴吹コミュニティ
技術統括部 担当部長
(インテリア担当)
富田 真人様



(株)ハローリビング
営業統括部
取締役統括部長
森 理則



内装資機材の搬出入をワンストップで 請負い、都心の大規模複合施設 特有の難題を解決

Partner
パートナー

ホテルや商業施設などの家具や什器の搬入・設置事業を展開している(株)ホリウチ・トータルサービス。2017年4月に名古屋駅前に開業した大型複合施設の建設に際し、商業店舗の資機材搬出入を一手に担い、都心の大規模複合施設で懸念される建築資機材の搬出入に関する多くの課題を解決しました。

独自システムの開発・導入と 中継基地の確保によって スムーズな搬出入とコスト削減を実現

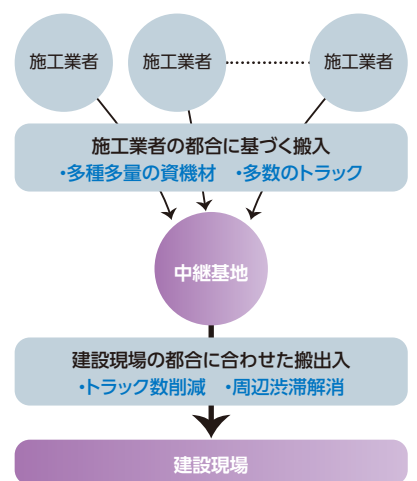
開業した施設は、地上46階建ての「JRゲートタワー」。オフィス、テナント、レストラン、ホテルなどが入居し、地下1階から8階までが、今回、建築・内装資機材の搬出入を請負った商業施設「タカシマヤゲートタワーモール」で、店舗数はファッション、雑貨など150にも上ります。現場への資機材の搬入には、隣接する百貨店の一般駐車場を通る必要があり、作業ができるのも夜間のみという制約がありました。そのため、最も懸念されたのが、各施工業者が個別に資機材を搬入することで発生する渋滞と搬入の遅延です。そこで、(株)ジェイアール東海高島屋様から、商業施設等の什器搬入で実績のある当社に、施工業者の取りまとめと搬出入の一元管理をして欲しいというご依頼がありました。

課題は山積していましたが、まず取り組んだのが業者と現場の間に運搬の中継基地を設けることでした。次に「搬入予約WEBシステム」の開発・導入です。各施工業者に搬入希望日時や資機材の重量、サイズなどを入力してもらい、当社で調整したスケジュールに基づいて資機材を中継基地に搬入してもらうようにしました。その後、当社がトラックに混載して指定日時に現場に一括搬入することで、トラックの台数や荷受などにかかる人員を削減することができ、周辺道路の渋滞解消とコスト削減も実現しました。

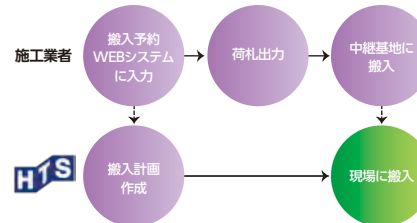


「ソリューションブック」を
発行

■ 本事例の資機材搬出入管理業務のフロー



■ 「搬入予約WEBシステム」の 現場搬入までの流れ



特殊車両の導入やパレットの特注で 運搬効率を高め、資機材の傷防止や現場の 養生にも万全の対策を実施

現場への搬入経路となった隣接ビルの立体駐車場は、通常のトラックでは天井がつかえて進入が難しいという課題もありました。そこで、トラックの仕様は車高の低い特殊な2t平ボディに限定。パレットもその荷台にぴったり収まるよう通常サイズより小さい特注品とすることで、スペース効率を上げ、少しでも多くの資機材を運べるように工夫しました。そのうえで、パレットに資機材が効率よく収まるよう荷造りルールを作成し、各施工業者に周知・徹底をお願いしました。

また、中継基地への資機材搬入時には、荷崩れや傷の有無などをチェックし、状態によっては傷防止対策を実施。現場の搬入導線ではフロアや壁を傷つけないようシートやコンパネで万全の養生を行うなど、当社が培ってきたノウハウをフルに活かしました。現場から出る廃棄物についても、廃棄物ヤードを設けて分別ルールを徹底しました。

半年間の工期中に要したトラックは延べ約3,800台。この確保に活きたのが、グループ会社であるコイズミ物流(株)が持つ協力配送業者のネットワークです。数々の課題解決には、経験豊富な社員が全国から集まり、アイデアを出し合いました。これら社員とアルバイトを含め、延べ6,000人が搬出入や施工業者の管理にあたりました。当社では、この業界初のビッグプロジェクトで得た多くの知見を、今後、同様の課題を抱えるお客様にお役立ていただこうと考えています。



JR Takashimaya
GATE TOWER MALL

輸入から国内輸送、搬入・設置まで、
グループとして一貫して対応できる
体制が確立しました

本プロジェクトでは、搬入経路の高さ制限、搬入時間の制限など建物内の制約条件が多くあり、ホリウチ・トータルサービスから高さ2.1mまでの2t平ボディで、夜間ピストン運行できる車両の確保を依頼され、当社の配車ネットワークを駆使し車両を確保しました。運行開始後も、搬入予約システムにより日々の積載情報を完璧に把握されており、積込車両の到着後もスムーズに作業ができ、待機時間もなく迅速に作業を終えることができました。当社も今回の経験により、保管・配送業務だけではなく仕事の幅が広がったと考えています。

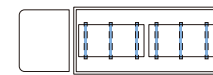


コイズミ物流(株)
外販統括事業所
西日本営業所 所長
菊地 敏浩

■ 搬入経路の高さ制限に対応 (2t平車トラック)



(積載例) 3×6板積載例



(積載例) パレット積載例: 最大7パレット積載可能



■ 職長会で「表彰状」をいただきました



ワンストップ対応で、 非常に効率的な搬出入が実現できました

今回のプロジェクトでは、物流拠点から工事現場までの資機材の運搬のみならず、現場内に搬入してから各テナント工事区画までの揚重・フロア内の横引き作業までワンストップで対応いただき、非常に効率的な資機材搬入が実現できました。おかげさまでスケジュールの遅れもありませんでした。非常に困難な業務でしたが、真摯かつ丁寧な取り組み姿勢は、弊社内外の関係者や工事現場内でもすぐぶる良い評判でした。今回、獲得されたノウハウを活かし、今後も工事・施工の中で私どもと同じような課題を抱えていらっしゃるディベロッパーさんの手助けをしていただけたらと思います。



株式会社
ジェイアール
東海高島屋
施設部 部長
松村 洋一様



中継基地(資機材管理)

搬入予約システムの正確な運用と、 スタッフの細やかな対応により無事完工できました

本プロジェクトは、通常の規模をはるかに上回る物量を短期間に納めなくてはならず、当社の経験値からも想像を超えるものでした。大きなプロジェクトだけに工事期間中も綿密な打ち合わせを行い、情報の共有に徹することで、無事に完工することができました。その結果として、現場のすべての作業に従事する業者の各職長をメンバーとする職長会から、「現場内で他業者間とコミュニケーションを積極的にとったこと」、「現場ルールを守り、新規業者に対する模範となり、指導育成に尽力したこと」が評価され表彰状をいただきました。今後も、この経験を現場で活かしていきたいと考えています。

(株)ホリウチ・
トータルサービス
東京営業部
部長
桐野 大介



照明、家具、家電の 各業界特性に特化した 物流サービスを提供

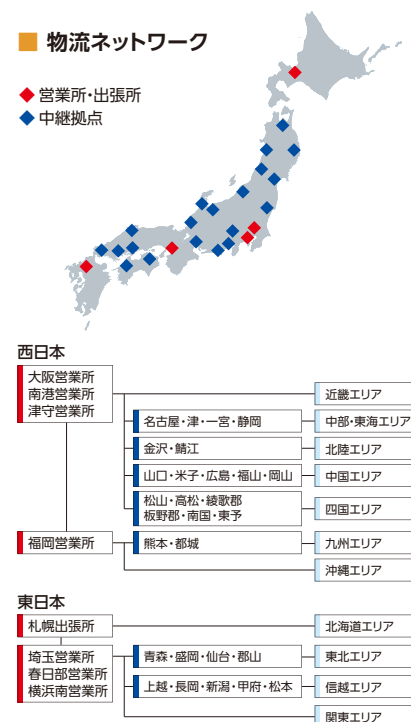
Partner
パートナー

コイズミ物流(株)では、グループ各社のみならず、外部のお客様に対して、それぞれの業界の事業特性に特化した高品質な物流サービスの提供を目指し、2016年に組織体制を再構築しました。また、メーカーの物流会社として培ってきたノウハウと全国に物流ネットワークを持つ強みを活かし、3PLなどの事業もいっそう強化・拡大しています。

全国的な視野で各業界のお客様と 折衝・提案することで、さらなる積載効率の 向上とコスト削減を実現

コイズミ物流(株)は、グループ会社のコイズミ照明(株)(照明事業)、コイズミファニテック(株)(家具事業)、小泉成器(株)(家電事業)の物流機能を担っています。2016年4月には各事業への対応力を高めるため、組織体制をこれまでの東西エリア軸から事業軸に替えて再編。事業ごとに統括部門を据えるとともに、各業界の外販を担う統括部門も設置し、合わせて4つの部門による運営を開始しました。従来、東西の所長が行っていたグループ各社や外部企業との折衝を、4人の統括部長が全国的な視野で行うことで、商品や配送先が大きく異なる業界ごとに特化したサービスや物流品質を提供できる体制が整いました。

コイズミ物流は、2015年に東大阪営業所を大阪営業所(南港)に移転。これによって照明・家具・家電の商品配送を行っている近畿3拠点間の距離が格段に近くなり、積載効率の向上やコスト削減というメリットが生まれていました。今回の組織再編では4人の統括部長が全員、大阪営業所に席を置き、コミュニケーションを密に取れる環境も構築。商品の共同配送はもちろん、トラックや人の配置・運用によって事業領域を超えた混載についてもいっそう柔軟に対応できるようになり、営業所移転によるメリットを本格的に発揮できるようになりました。



KOIZUMI'S VOICE 各業界のお客様の事業を 物流を通していっそう強力にサポート

施工現場への納期厳守を求められる「照明・電材」、配送・販売先が家電量販店の商品センターに集約されつつある「家電」、同じく大型店への販売・配送へのシフトが進み、配送に特殊な技術を要する「家具」と、業界ごとに物流に求められるニーズは違います。それら異なるニーズを的確に捉え、全国的な視野で対応できる体制が整ったことで、各業界のお客様をいっそう強力にサポートし、当社、配送先にもメリットがでる提案に取り組んでいきます。

コイズミ物流(株)
外販統括事務所
統括所長
兵庫 正能

コイズミ物流(株)
取締役
事業本部長
木ノ本 秀秋

運送業界が抱える課題解決にも つながる3PLを外部の企業様に向けて いっそう積極的に展開

外部のお客様の物流受託については、年々取扱量を増やしています。強みは、全国に張り巡らせた輸配送ネットワークと、メーカーの物流子会社として培ってきたノウハウです。最近では商品配送だけでなく、輸送・荷役・保管をトータルで請け負う3PLを積極的にご提案しています。

2016年8月には、通信・電設資材メーカーのマサル工業(株)様の大阪倉庫をコイズミ物流大阪営業所内に移転していただき、西日本エリアにおける3PLを開始しました。北陸への商品配送に課題を抱えておられる中で、当社のホームページを見てご相談いただいたのがきっかけです。同社とコイズミ照明は、商品や配送ルートに共通点が多いことから、輸送コストの削減や納期短縮などにメリットを感じていただき、今後は全国へも展開していく計画です。

3PLのニーズが高まっている背景には、一定以上の積載量を持つトラックに運行記録計の装着が義務付けられ、長時間・長距離輸送が困難になったことや、ドライバー不足などによって、商品在庫を配送先の近くに持つ必要が出てきているためです。コイズミ物流では2018年夏までに関東と関西で新たな倉庫を既存営業所の近くに配置し、こうしたお客様のニーズにいっそう応えていきます。

STAKEHOLDER'S VOICE 常に顧客サービスを考えていただき、 積極的に対応いただいています

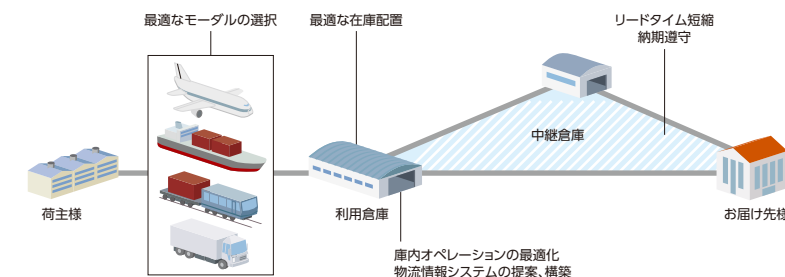
コイズミ物流様に委託する決め手になったのは、倉庫業務の品質の高さと共同配送の配達先が弊社取引先と合致している点はもちろん、弊社の要望に対して、スピーディーかつ真摯に取り組んでいただいたこと。特に、委託移行時のフォローアップには手厚く取り組んでいただき、顧客トラブルもなく移行を完了することができました。今後も、在庫管理・配送で常に改善案件を共有し、品質向上・コストダウンに取り組んでいただくとともに、新たなビジネス展開のパートナーとしての取り組みに期待しています。



KOIZUMI'S VOICE 倉庫から配送先への直行便によって、 商品ダメージを最低限に抑えます

運送業界を取り巻く環境はいっそう厳しくなる中で、今後、商品配送先の近くに倉庫を持つ倉庫分散の傾向がますます強まっていくのは必至です。当社の3PLでは各地の倉庫に商品を在庫し、配送先に商品を直送することで商品ダメージを最低限に抑えることが可能です。今後はまず関東、関西、そして将来的には九州でも倉庫キャパを増やし、お客様の国内工場から倉庫への在庫補充などもお任せいただけるような体制を整えていきます。

■ 3PL 物流サービス



小泉成器(株)との協力で推進 児童養護施設への 「デスク・家具調コタツ寄贈活動」

People
人

小泉産業(株)がグループの事業特性を活かした社会貢献活動として継続している児童養護施設への製品寄贈活動が、2016年度で6回目を迎えました。5回目からはブランドを共有する小泉成器(株)も参加して「デスク・家具調コタツ寄贈活動」として実施し、グループを挙げた活動に広がっています。



広島の子童養護施設「広島修道院」で贈呈式を実施。
当社グループを代表して小泉産業・谷垣取締役(写真右)が参加。

2016年度寄贈先



たくさんのお礼状を
いただきました

6回目の2016年度は中国地方で実施、 参加社員数は過去最多

活動は、東日本大震災の復興支援のひとつとして2011年度に東北3県で始まりまし。その後、全国の児童養護施設で暮らす子どもたちを対象に、毎年、春休みに実施しています。2回目以降、大阪、九州、中部、栃木で実施し、6回目は、2017年3月から4月にかけて、中国地方で実施しました。第1回から6回までの寄贈施設数は合計23県110施設、寄贈台数はデスクとコタツを合わせ370台に上っています。

この活動は社員が参加して子どもたちと一緒に製品を組み立て、顔の見える交流の中で行われる点が特徴です。当初は小泉産業(株)とコイズミファニテック(株)の活動でしたが、3回目からはコイズミ照明(株)、5回目からは小泉成器(株)の社員も参加しています。

6回目の今回は、32人の社員が参加し、学習デスク50台、家具調コタツ50台を寄贈。寄贈施設数、参加社員数、寄贈台数とも過去最多の規模となりました。3月28日には活動の皮切りとして広島の子童養護施設「広島修道院」にて贈呈式を実施。続いてコイズミ照明の社員による「あかり教室」も開催しました。この活動をサポートしていただいているNPO法人キッズ・ドリーム・パートナーズ様からは図書券10万円のサプライズプレゼントもあり、子どもたちにとって盛りだくさんの1日になりました。



VOICE 子どもたちが夢に向かって 大きく羽ばたけますように

大学で、児童養護施設について学んだこともあり、今回の活動に対して、特別な思いを持って取り組みました。施設を取り巻く厳しい環境とは裏腹に、元気いっぱい、キラキラした目で将来の夢を語ってくれる子どもたちに胸が熱くなりました。そして、ピカピカの新しい机が子どもに多くの希望を与えるのだと知り、本活動の意義を強く感じました。一人でも多くの子どもたちが夢に向かって大きく羽ばたけるように、今後もこの活動が続いていくことを願っています。



VOICE メーカーとしての社会貢献を 実感しました

今回のデスク寄贈活動は、入社後初のエンドユーザー様と触れ合う機会ということで、私自身非常に良い経験となりました。寄贈先の施設では、子どもたちと共に学習机などの組み立てを行いました。工具を使用して組み立てるという作業も、子どもたちにとっては初めての体験で、楽しみながら作業をしていました。今回の経験により、メーカーとして社会貢献できていることを改めて実感すると共に、今後もこの喜びと使命感をもって仕事に臨みたいと思います。

自らが汗をかき、子どもたちとの触れ合いの中で 実感する社会貢献

良い製品やサービスを作って販売し、収益を上げて税金を納める。その税金がさまざまな社会システムの運営資金として配分され、人々の暮らしを豊かにしていく。これが企業が果たすべき最も大きな社会的責任です。

こういった大きなスケールで社会を支える仕組みとは別に、企業が独自で行う社会支援活動もあります。当社のデスク・家具調コタツ寄贈活動もその一つ。一企業が手づくりで行っているため動きは遅いですが、その分この活動は、子どもたちや施設の方の笑顔を直接見ることができるため、役に立てたという実感が湧き大きな手応えを得ることができます。

自社の特性が活かせる、何らかの社会課題の解決につながる、社員が参加しやすい、この3つが揃えば社会貢献活動として社内の協力も得やすくなるのではないのでしょうか。これまでに延べ110名の社員が参加しましたが、多くの社員が「参加できてよかった」「また参加したい」と語っています。子どもたちとの触れ合いの中で生まれる心温まるエピソードも、多数報告されています。

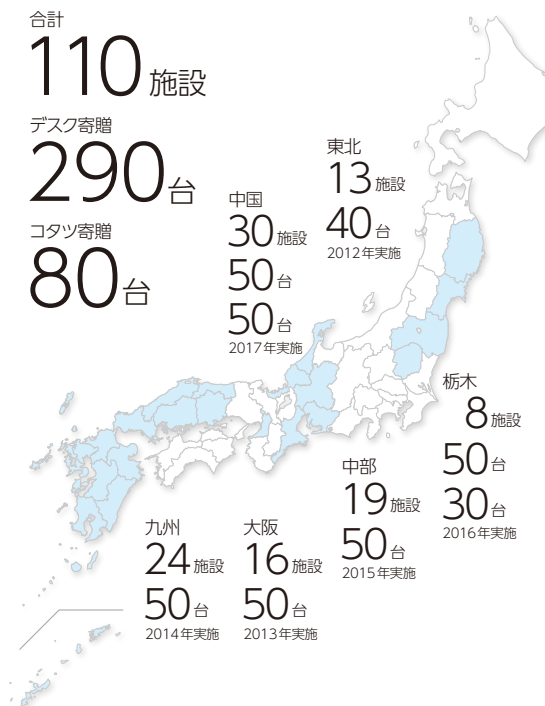
子どもたちが成長した10年、20年後に、社員とのこの交流を思い出してもらえたら、これほど嬉しいことはありません。この活動は今後も小泉産業と小泉成器の協力によって継続していきます。



STAKEHOLDER'S VOICE みんなに「希望」と「勇気」をいただきました

歴史ある小泉産業グループ様の社会貢献活動に対するアイデンティティのようなものを感じました。そして、ただの学習デスク、コタツではなく、「希望」と「勇気」をいただきました。子どもたちと一緒に組み立てていただいた様子を思い出し、改めて感謝申し上げます。私は、全国児童養護施設協議会の会長を5月に退任しましたが、在任中は大変お世話になりました。今後とも協議会へのご協力をよろしくお願いいたします。

第1～6回の活動集計



小泉産業(株)
総務室
CSRグループ
塚本 雅夫

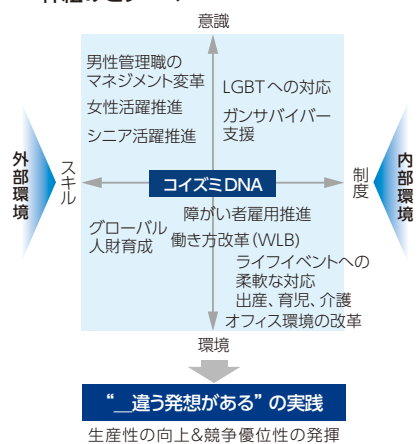


多様性を活かす 小泉産業グループ 「ダイバーシティ推進基本計画」を策定

People
人

小泉産業(株)グループでは、新しいブランドステートメント「_違う発想がある」を2015年に社会に向けて発信しました。このステートメントを実践する取り組みのひとつとして、多様な人材、発想、働き方を受け入れ、活用を促すダイバーシティをグループ全体で推進し、生産性向上や競争優位につなげるための推進基本計画を策定しました。

ダイバーシティの取り組みの 枠組みとテーマ



- 外部環境**
- 労働人口の減少（女性・高齢者・再雇用）
 - グローバル化の加速
 - 若年層の草食化
 - 価値観の多様化
- 内部環境**
- 支配型マネジメント
 - 低生産性
 - 長時間労働
 - 価値観の単一化

ダイバーシティ推進体制



「女性活躍推進」など10のテーマを設定し 2年ごとの推進計画と6年後の「姿」を策定

ダイバーシティとは、性別や人種、年齢、学歴、価値観の多様性を受け入れ、多様な人材を企業の成長に活用していこうという考え方のことです。女性の活躍推進に代表されるダイバーシティへの取り組みは、国も政策として明確に打ち出し、多くの企業で組織の活性化や事業の競争優位につなげようと、さまざまな取り組みが進められています。

小泉産業グループでも、コイズミ照明(株)が2015年に「女性社員戦力化プロジェクト」を発足させ、多様性を理解しあう制度・仕組み・風土づくりを進めています。しかし、グループ全体としては、ダイバーシティへの認識自体が充分とは言えない状態です。

そこで、ダイバーシティの必要性をグループ全社員が認識・共有し、ブランドステートメント「_違う発想がある」の人材面の実践として進めていこうと、2016年9月に「ダイバーシティ推進基本計画」を策定しました。「ダイバーシティ風土の醸成」「女性活躍推進」「シニア活躍推進」「ライフイベントへの対応」「男性管理職のマネジメント変革」など10のテーマについて、2017年度から2022年度までの計画が組まれています。2年ごとの推進計画を実践し、2022年度には会社業績への貢献が明確になり、ダイバーシティを積極的に推進する企業グループであるという社会認知度の向上にまでつなげていくことを目標としています。



コイズミ照明(株)
LCR大阪
桂 響子

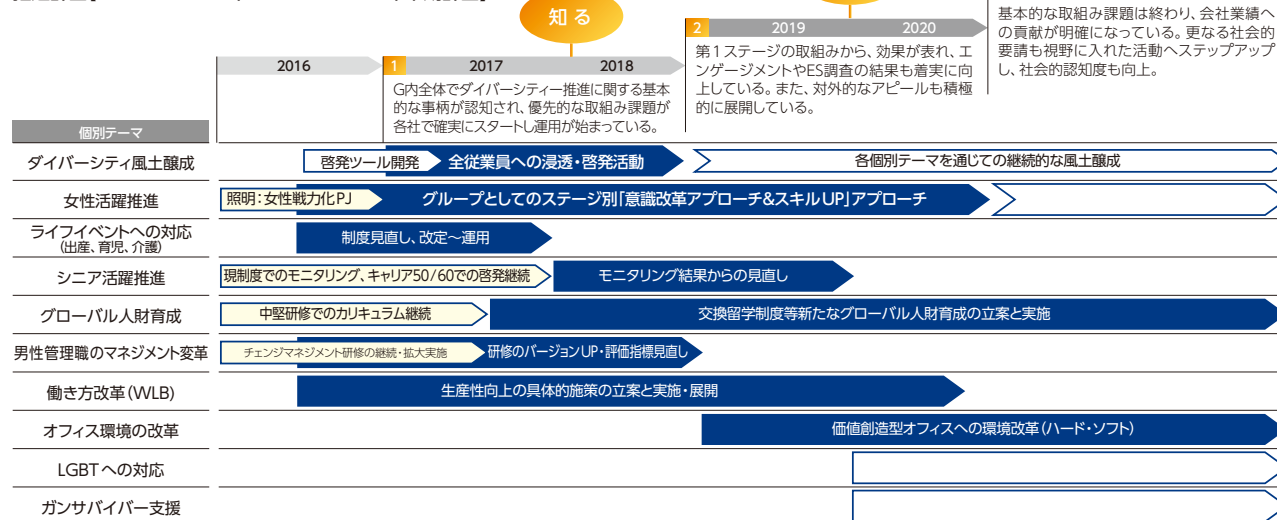
KOIZUMI'S VOICE

仕事と子育ての両立など、新しい働き方のため、
在宅勤務トライアルを実施しました

育児休業から復帰後、新しい働き方の課題抽出のため、コイズミ照明で2017年1月よりスタートした「在宅勤務トライアル」を3カ月間実施しました。当初は、仕事と家庭の両立ができるのか、自宅でも同じように仕事ができるのかという不安がありましたが、情報管理室の協力により、現在では会社と自宅での環境に差を感じることはありません。在宅勤務のメリットは、往復2時間の通勤時間を仕事に充てることができ、フルタイム勤務を可能にすること。想像以上に仕事に集中して取り組むことができる反面、周囲とのコミュニケーションを密にしていけることが大切と感じました。

ダイバーシティ推進基本計画

推進計画【1ステージ/2か年・3ステップ:6か年中期計画】



多様性を認め合う企業風土の醸成から着手し 各社の特性・事情にあわせた活動を推進

当社グループは、事業内容も社員の年齢構成もさまざまな会社から構成されています。一律に同じ目標を設定して計画を推進していくのは難しいため、各社で優先テーマを決め、取り組んでいます。

例えば、小泉産業(株)では、「ライフイベントへの対応」をテーマに掲げていますが、子育て支援制度や介護休暇制度などが充実しても、利用する社員や上司に理解がなければ、制度の利用が進みません。そこで、2017年度は、啓蒙パンフレットの作成や研修会のカリキュラム化などを通じて、ダイバーシティを当たり前と考える企業風土の醸成に取り組んでいます。また、コイズミファニテック(株)では、「女性活躍推進」のテーマにおいて、女性役職者の登用を具体的な目標に掲げ、2016年度に続き、2017年度も女性役職者を新たに登用しました。これらの計画の推進にあたっては、関西を中心とした50数社で構成される「西日本ダイバーシティ勉強会」に小泉産業の人事担当の社員が参加し、情報収集や研究にあたっています。「男性管理職の意識を変えるには?」「介護について考える」などのテーマで討議した内容は、当社グループ各社にフィードバックして、計画に役立てていきます。

多様な考え・知恵が活かされる企業風土づくりを通じて、「_違う発想」で社会に役立つ商品・サービスを生み出す企業グループを目指して、今後も、取り組みを加速させていきます。



コイズミ照明(株)
LCR東京 統括室長
石田 秀樹

KOIZUMI'S VOICE

在宅勤務の導入による多様な人材の確保が
これからの組織運営に不可欠です

LCRは女性が多い職場で、これまでは出産のタイミングで退社する社員も数多くいました。さまざまな事情があると思いますが、積み重ねてきたキャリアを考えると、もったいないと感じていました。私たちLCRが担当している照明プランの作成には、女性ならではの子育ての経験を活かし、ユーザー目線での幼稚園や保育園の照明提案ができるなど、さまざまな経験値が役に立ちます。現在、桂さんが活用している「在宅勤務トライアル」を通して、さまざまな課題が出てきましたが、これを機会に現時点での問題点を明らかにしていき、関係部署と共に、解決方法を見つけていきたいと考えています。

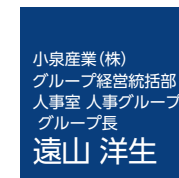
KOIZUMI'S VOICE

会社全体を考え、協力し合う気持ちを
みんなで高めたい

コイズミファニテックの東日本営業部への営業体制シフト強化、業務拡大および東京営業所移転に伴い、今年度より管理監督者に登用されました。これまでは仕事を円滑に進めるという働き方でしたが、東日本業務室室長となり視野を広げ、さまざまな立場からの見方、考え方に気を配る働き方になりました。さまざまな立場や環境があるとは思いますが、今後は、みんなが互いに協力し合える気持ちをもつことで、コイズミファニテックおよびグループ全体がやりがいのある、働きがいのある会社になつていけると考えています。



コイズミ
ファニテック(株)
東日本業務室 室長
坂倉 友紀



小泉産業(株)
グループ経営統括部
人事室 人事グループ
グループ長
遠山 洋生



創業時からの“三方よし”の考えのもと グループ全体で社会的責任を果たしていきます

CSRマネジメント

理念に基づく4つの要素を柱にグループ全体でCSRを推進

企業の社会的責任（CSR）は時代とともに大きくなっていますが、当社グループは、創業の源流にある近江商人の哲学“三方よし”のもと、CSRの遂行に努めています。

グループ経営がスタートした2006年度より、「コンプライアンス&リスクマネジメント」「品質マネジメント」「環境マネジメント」「コーポレートブランドマネジメント」の4つをマネジメントの柱として、グループ全体でCSR経営を推進しています。

第四次中期経営計画の最終年度である2017年度においても「創業時より培ってきたDNAを受け継ぎ、新たな価値創造に挑戦する」のスローガンのもとに、CSR経営の輪郭がよりはっきりとしたグループ像を目指して取り組みます。

環境・品質マネジメント

ISOをマネジメントツールに顧客満足度向上と環境保全を推進

当社グループは、経営品質の確保による顧客満足の向上と環境経営の推進による環境への負荷低減のために、マネジメントの国際標準規格であるISO9001とISO14001を認証取得し、継続的な経営改善のツールとして運用しています。

2016年度は、2015年9月に改訂された国際規格（2015年版）への移行作業にあたり、組織の内外の課題と利害関係者のニーズ、品質・環境上のリスクと機会を捉え直し、各マネジメントマニュアルの改訂に取り組みました。

また、規格の改訂内容を周知するためにイントラネットを活用した教育を本年3月からスタートし、継続してISOについての理解と運用レベルの向上に努めています。

2017年度は新たに稼働したコイズミ照明R&Dセンター（大阪市東成区）を適用範囲として拡大する予定で、年内に他の事業所と合わせて2015年版への移行を完了します。

コンプライアンス&リスクマネジメント

グループ全従業員にWEBコンプライアンス研修を継続的に実施

CSR経営を推進していくためには、企業にコンプライアンス風土が根付くことが欠かせません。当社グループでも、このことに早くから取り組み、従業員一人ひとりがコンプライアンスを意識して行動できるよう、さまざまな教育・啓発を行ってきました。

とりわけ、2012年度から毎年継続しているWEBコンプライアンス研修は、2016年度で5回目を迎えています。4半期に一度ずつ、気を付けるべき事柄について出題し、また、正答率や受講率を公表することで、弱点分野やコンプライアンスに対する意識の高さなどが確認できるよう努めています。今年度も各回とも90%を超える受講率となりました。

2017年度は、個人情報保護法が大幅に改正強化されるなど、情報管理についてさらなる対応が求められることを受け、個人情報保護を中心とした情報管理について、コンプライアンス施策を展開する予定です。

CSRマネジメントの構造

■コーポレートブランドマネジメント

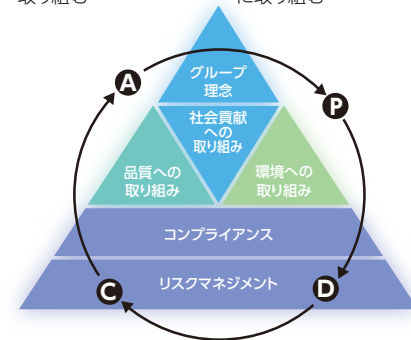
“グループ理念体系”に基づいて、コーポレートブランド価値の最大化を図り、社会に愛され信頼される企業を目指す

■品質マネジメント

ISO9001を基本に製品品質はもちろんのこと経営品質の向上に取り組む

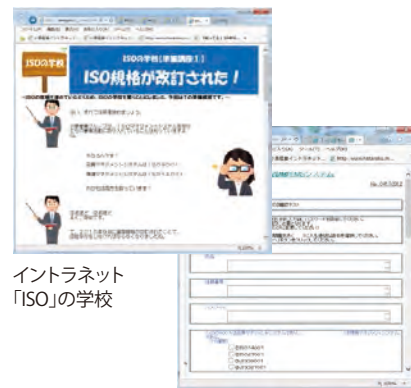
■環境マネジメント

ISO14001を基本にサプライチェーンを含めた環境経営の推進に取り組む



■コンプライアンス&リスクマネジメント

コンプライアンスとリスク管理という視点から管理項目を洗い出し、社内ルールを整備・維持・管理する



イントラネット
「ISO」の学校

事業所	受講率
本社	95.0%
名古屋事業所	92.0%
大阪事業所	98.0%
福岡事業所	90.0%
広島事業所	93.0%
岡山事業所	91.0%
香川事業所	94.0%
愛媛事業所	96.0%
高松事業所	97.0%
徳島事業所	99.0%
高知事業所	96.0%
佐賀事業所	94.0%
長門事業所	92.0%
大分事業所	95.0%
熊本事業所	93.0%
鹿児島事業所	91.0%
沖縄事業所	90.0%

各社の受講率
を社内公表

KOIZUMI TOPICS

「大阪府公民戦略連携デスク」を通じて、 「大阪府立子どもライフサポートセンター」の 子どもたちによる業務見学会を実施しました

2016年6月、当社グループ創立300周年に因んで受けた取材の記事が毎日新聞に掲載され、これに関心を持たれた「大阪府公民戦略連携デスク※1」から連絡をいただきました。連携テーマを相互に模索していく中で、当社グループの「児童養護施設へのデスク・コタツ寄贈活動」から話が展開し、「大阪府立子どもライフサポートセンター※2」の子どもたちの就労支援をお手伝いすることとなりました。

そこで、当社グループの（株）ホリウチ・トータルサービスが、コイズミ照明R&Dセンターの家具・什器の搬入、設置業務に取り組んでいたため、興味を持たれた2名の生徒さんによる業務見学会を2017年3月に実施しました。現場では、子どもたちの真剣な眼差しが印象的で、見学後の振り返りでも質問が相次ぎ、「働くみなさんの実際の声を聞くことができ、貴重な機会になりました」とのお言葉をご担当者からいただきました。

今後も、一過性のイベントで終わってしまうのではなく、継続的な取り組みとして進めていき、子どもたちを支援していきたいと考えています。

※1 民間と行政のマッチングを行う大阪府庁の旗振り役である公民連携の専任部署。
※2 中学校卒業から18歳までの社会的養護が必要な児童に、進学や就職など社会的な自立に向け必要な支援を行う入所施設。



業務見学会



大学コンソーシアム大阪

「企業のコンプライアンス」をテーマに 大学への出前講座で学生の社会教育を支援

小泉産業（株）では、社会貢献活動の一環として、2008年度から大学の要望を受け、就職活動を控えた大学生を対象に、コンプライアンス（法令遵守）や社会的責任を意識した企業活動の重要性を理解していただく機会として、さまざまな大学で出前講義を実施してきました。そして、現在では、大学からのリクエストにより、日常業務での取り組み課題であるリスクマネジメントについても、実務者の観点から出前講義を行っています。また、社会人経験に乏しい大学生により企業というものを理解していただくため、できるだけ実際の事業活動を紹介し、具体的なイメージの中で企業が社会に果たすべき責任とはどういうことなのかを考えていただけるような工夫をしています。

2016年度は、大学コンソーシアム大阪ほか4つの大学で講義を行い、合わせて310名の学生に受講していただきました。

全国の事業所で地域清掃活動を実施

当社グループでは全国の事業所で、周辺の清掃美化活動を実施しています。2016年度は21カ所で活動を行い、地域美化に貢献することができました。各事業所の活動状況は、社内のイントラネットを通じて全社に発信し、グループ内で共有しています。

こうした活動は、事業所近隣の皆様とのコミュニケーションを生むきっかけにもなっています。年間を通じて定期的に活動している事業所もあり、それぞれの自主的な取り組みとして活動が定着し、継続されるように推進を図っていきます。



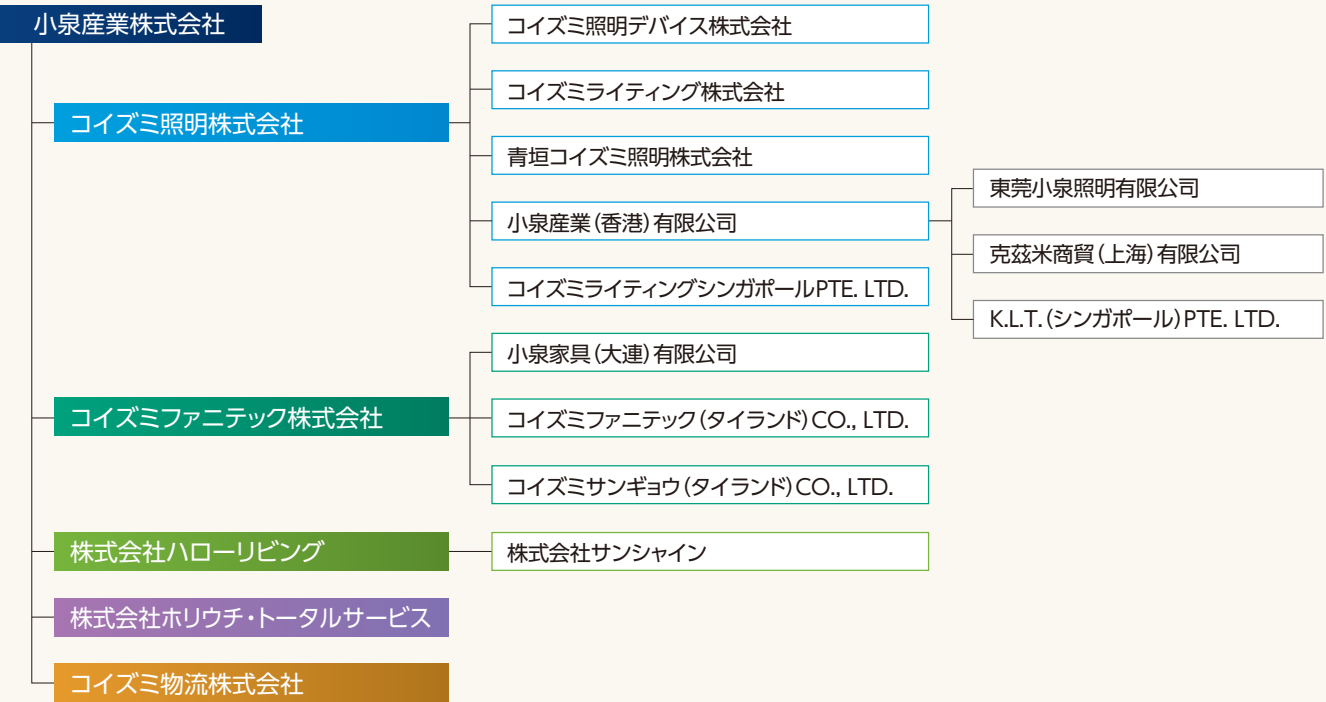
本社



名古屋事業所

小泉産業グループ各社の概要

小泉産業グループの体制 (2017年度)



小泉産業株式会社
商 号 小泉産業株式会社 本社所在地 〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-7 代 表 者 代表取締役社長 梅田 照幸 創 業 1716年(享保元年) 設 立 1943年6月25日 資 本 金 1,575百万円 従 業 員 79名(単体) 事業内容 持株会社 子 会 社 17社(うち連結対象13社)

コイズミ照明株式会社
商 号 コイズミ照明株式会社 本社所在地 〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-7 代 表 者 代表取締役社長 梅田 照幸 設 立 2006年4月1日 資 本 金 450百万円 従 業 員 632名 事業内容 照明器具の企画・開発・製造・販売

コイズミ照明デバイス株式会社
商 号 コイズミ照明デバイス株式会社 本社所在地 〒559-0031 大阪市住之江区南港東8-4-47 プロロジスパーク大阪5 3階 代 表 者 代表取締役社長 梅田 照幸 設 立 1981年6月8日 資 本 金 10百万円 従 業 員 20名 事業内容 LED用部材・電子安定器・ランプ・他 照明器具構成部材の販売及び輸出入、並びに照明器具の組立製造

コイズミライティング株式会社
商 号 コイズミライティング株式会社 本社所在地 〒529-1512 滋賀県東近江市大塚町1289-2 代 表 者 代表取締役社長 吉田 卓 設 立 1966年10月20日 資 本 金 100百万円 従 業 員 134名 事業内容 照明器具の製造

青垣コイズミ照明株式会社
商 号 青垣コイズミ照明株式会社 本社所在地 〒669-3841 兵庫県丹波市青垣町口塩久町田733番5 代 表 者 代表取締役社長 谷垣 正則 設 立 2010年4月5日 資 本 金 80百万円 従 業 員 109名 事業内容 照明器具の製造

小泉産業(香港)有限公司
商 号 小泉産業(香港)有限公司 本社所在地 Units A-B, 26th Floor, 8 Hart Avenue, Tsimshatsui, Kowloon, Hong Kong 代 表 者 董事長 中島 誠一 設 立 2002年3月11日 資 本 金 HK\$6,548,000 従 業 員 10名 事業内容 照明器具の企画・開発・製造・販売

東莞小泉照明有限公司
商 号 東莞小泉照明有限公司 本社所在地 No.12, Information & Industry Garden, Xihu District, Shilong Town, Dongguan City, Guangdong Province, P.R.China 代 表 者 董事長 中島 誠一 設 立 2009年7月20日 資 本 金 RMB3,462,316 従 業 員 190名 事業内容 照明器具の開発設計・組立製造・販売 照明設計、品質管理等のコンサル ティングサービス

コイズミライティングシンガポールPTE. LTD.
商 号 KOIZUMI LIGHTING SINGAPORE PTE. LTD. 本社所在地 41 Ubi Crescent Singapore 408588 代 表 者 Director(CEO) Dave Wee 設 立 1994年8月11日 資 本 金 S\$1,000,000 従 業 員 30名 事業内容 照明器具、ランプ、照明器具部品の 輸出入販売 照明デザインおよび 電気工事

コイズミファニテック(タイランド)CO., LTD.
商 号 KOIZUMI FURNITECH (THAILAND) CO., LTD. 本社所在地 15/2 Moo1, Tambol Tangkween Amphur Klaeng Rayong Province 21110 Thailand 代 表 者 代表取締役社長 川上 隆司 設 立 1981年7月2日 資 本 金 THB30,000,000 従 業 員 200名 事業内容 家具(テーブル、椅子)の製造・販売

株式会社サンシャイン
商 号 株式会社サンシャイン 本社所在地 〒813-0034 福岡市東区多の津3-7-29 代 表 者 代表取締役社長 石尾 泰裕 設 立 1975年7月1日 資 本 金 10百万円 従 業 員 16名 事業内容 住宅設備機器の販売・取付工事

克茲米商貿(上海)有限公司
商 号 克茲米商貿(上海)有限公司 本社所在地 10F A, Meihuan Tower, No.107 Second Zhongshan Road(South), Xuhui Dist., Shanghai.China 代 表 者 董事長 杉本 健 設 立 2006年11月15日 資 本 金 RMB2,936,976 従 業 員 55名 事業内容 照明器具の企画・販売 他

コイズミファニテック株式会社
商 号 コイズミファニテック株式会社 本社所在地 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-1 大阪本町西第一ビルディング2階 代 表 者 代表取締役社長 川上 隆司 設 立 2006年4月1日 資 本 金 100百万円 従 業 員 93名 事業内容 学習環境家具及び介護機器等の 企画・開発・製造・販売

コイズミサンギョウ(タイランド)CO., LTD.
商 号 KOIZUMI SANGYO (THAILAND) CO., LTD. 本社所在地 134 Cholacin Building, 3rd Floor, Surawong Road, Siphaya, Bangrak Bangkok 10500, Thailand 代 表 者 代表取締役社長 土居 和彦 設 立 1995年5月24日 資 本 金 THB5,000,000 従 業 員 9名 事業内容 家庭用家具・店舗用家具・特注家具・ 店舗用什器の企画・開発・製造・販売

株式会社ホリウチ・トータルサービス
商 号 株式会社ホリウチ・トータルサービス 本社所在地 〒143-0022 東京都大田区東馬込2-19-11 代 表 者 代表取締役社長 権藤 浩二 設 立 2003年4月1日 資 本 金 70百万円 従 業 員 107名 事業内容 ホテル、オフィス、商業施設等への 家具・什器・設備等の搬入設置

K.L.T.(シンガポール)PTE. LTD.
商 号 KOIZUMI LIGHTING TECHNOLOGY (SINGAPORE) CORPORATION PTE. LTD. 本社所在地 10 Anson Road #17-06 International Plaza, Singapore 079903 代 表 者 代表取締役 中島 誠一 設 立 2014年12月1日 資 本 金 SGD400,000 従 業 員 3名 事業内容 照明器具の企画、販売

小泉家具(大連)有限公司
商 号 小泉家具(大連)有限公司 本社所在地 12/F, Senmao Building, 147 Zhongshan Road, Dalian, China 代 表 者 董事長 川上 隆司 設 立 2010年5月5日 資 本 金 \$210,000 従 業 員 5名 事業内容 学習環境家具・インテリア雑貨の 小売・卸売

株式会社ハローリビング
商 号 株式会社ハローリビング 本社所在地 〒542-0081 大阪市中央区南船場1-13-27 アイカビル8階 代 表 者 代表取締役社長 石尾 泰裕 設 立 1981年7月2日 資 本 金 20百万円 従 業 員 32名 事業内容 住宅設備機器の販売・取付工事

コイズミ物流株式会社
商 号 コイズミ物流株式会社 本社所在地 〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-7 代 表 者 代表取締役社長 八田 康 設 立 1999年5月25日 資 本 金 50百万円 従 業 員 74名 事業内容 貨物自動車運送取扱事業、貨物 自動車運送事業、倉庫業、物流 システム開発販売業務、物流コン サルタント業務、引越し・据付業務、 その他上記に付帯する関連業務

小泉産業株式会社

発行:2017年7月

〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-7
TEL.06-6262-1391 FAX.06-6262-1490

<http://www.koizumi.co.jp/>



この印刷物に使用している用紙は、岩手県の森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



適切に管理された森林で生産された木材を使ったFSC®認証紙を使用しています。



この印刷物は植物油インキを使用しています。



印刷工程では、有害な廃液を出さない水なし印刷方式で印刷しています。